

令和 4 年度

事業報告書



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

栃木県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、日頃からご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本赤十字社は、1877年の博愛社創設時から、国内外での戦時救護、災害救護活動をはじめ、医療事業や血液事業、社会福祉事業など、時代のニーズに応え、様々な活動を展開してきました。

令和4年度は、本県では幸いにも大きな災害は発生しませんでした。8月の大雨により東北地方や北陸地方で大きな被害が発生し、日本赤十字社としましては、医療救護班の派遣などの救援活動を行いました。今年に入ってから、5月に石川県、その他全国各地で地震が発生していることから、救援物資の配布等を行っております。

また、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、全国の赤十字病院で多くの患者を受け入れたほか、医療従事者を全国各地の医療機関に派遣しました。

一方、国外では、ウクライナにおける戦闘が激化してから1年4か月が経過しようとしています。いまだに終結が見通せない状況にあります。また、この2月には、トルコ・シリアの国境付近で大規模な地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。国際赤十字及び日本赤十字社は、それぞれの被災地において懸命に救援活動を行っており、多くの方々から温かなご支援とご協力をお寄せいただいております。

こうした中、昨年、青少年赤十字が創設100周年を迎えたことから、栃木県支部におきましても、各種の記念事業を実施しました。その他の事業につきましても、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら取り組み、令和3年度に引き続き、令和4年度におきましても前年度と比べ、より多くの事業を実施することができました。

また、管内の赤十字病院では多くの新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、懸命に治療にあたるほか、地域の中核病院としての役割・機能を積極的に担っており、血液センターでは、厳しい状況の中、献血者の確保に努め、医療機関に血液製剤を安定的に供給してきました。

これらの活動については、1ページ以降をご覧ください。

去る5月8日には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類に移行しましたが、ポスト・コロナを見据え、管内施設が一丸となって皆様のご期待に応えるべくより一層努力してまいりますので、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 栃木県支部の主な数字



救護班・救護員数

これまでに養成した救護員は 合計 **935人**

☆令和4年度は・・・

→ **9個班・66人**を常備

災对本部要員・血液供給要員も含めると **107人**

☞詳しくは P1～の「1 災害救護(1)」 参照



救援物資備蓄数

毛布 **3,188枚** 布団セット **459組**

緊急セット **928個** 安眠セット **233組**

(令和5年3月31日現在)

☆令和4年度は・・・

→ **78件**の火災等に対応

☞詳しくは P6～の「1 災害救護(4)」 参照

救急法等講習会・受講者数

☆令和4年度は・・・

→ 講習会を **280回**開催

受講者は **7,724人**

☞詳しくは P9～の「2 救急法等の講習(1)」 参照

ボランティア

☆令和4年度は・・・

→ 奉仕団員としての登録は **1,953人**

個人活動の防災ボランティアは **99人**

☞詳しくは P7～の「1 災害救護(5)」 参照

☞ P15～の「3 赤十字奉仕団、ボランティア活動」 参照

青少年赤十字

☆令和4年度は・・・

→ 加盟校としての登録は **107校 (園)**
メンバーの幼児・児童・生徒は **19,527人**

☞詳しくは P22～の「4 青少年赤十字(1)」 参照

赤十字看護師養成数

日本赤十字看護大学で養成は これまでに合計 **72人**

☆令和4年度は・・・

→ 新たに**2人**の学生(奨学生)を養成
(在学生**17人**)

☞詳しくは P37～の「6 医療、血液、看護師養成(3)」 参照

会員数

2,000円以上ご協力いただいた会員数は

個人 **3,097人** 法人 **1,469名** (令和5年3月31日現在)

☆令和4年度は・・・

→ 1年間の活動資金合計 **298,755,005円**

☞詳しくは P39～の「8 会員、活動資金(1)」 参照

目 次

令和4年度事業報告

はじめに

栃木県支部の主な数字

1	災害救護	1
2	救急法等の講習	9
3	赤十字奉仕団、ボランティア活動	15
4	青少年赤十字	22
5	国際活動	31
6	医療、血液、看護師養成	32
7	赤十字思想の普及・広報	37
8	会員、活動資金	39
9	役員、評議員	40
10	その他取り組み	41

資 料

資料1～13	45
--------	----

1 災害救護

日本赤十字社の救護活動は、国際的にはジュネーブ諸条約、赤十字・赤新月国際会議の決議に基づき、国内においてはそれら諸条約、決議を拠りどころとした日本赤十字社法及び日本赤十字社定款に基づいて行われている。

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」に規定されており、災害救助法においては、国及び都道府県等の救助活動に協力する義務が規定されている。

また、「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（国民保護法）」においても「指定公共機関」として規定されている。

したがって、日本赤十字社は、災害時に直ちに被災地へ救護班等を派遣し、傷病者の救護にあたるという使命を有しており、対応に万全を期するため、当支部においても、救護員に対する研修及び訓練の実施や救護資機材の整備を行い、体制を整えている。

(1) 救護員の登録

当支部では、災害時に迅速な救護活動ができるよう医師や看護師等で構成する常備救護班を編成しており、血液供給要員等も含めた登録状況は次のとおりである。

区 分	救護班						血液供給要員	災害対策本部要員	日赤災害医療コーディネーター※1		DMAT※2
	編成数	要員							コーディネーター	コーディネータースタッフ	
		医師	看護師長	看護師（含助産師）	薬剤師	主事					
芳賀赤十字病院	3 個班	3 人	3 人	6 人	3 人	6 人	—	6 人	2 人	3 人	2 チーム
那須赤十字病院	3 個班	3 人	3 人	7 人	3 人	7 人	—	11 人	2 人	6 人	3 チーム
足利赤十字病院	3 個班	3 人	3 人	7 人	3 人	6 人	—	5 人	2 人	2 人	1 チーム
栃木県赤十字血液センター	—	—	—	—	—	—	2 人	3 人	—	—	—
支 部	—	—	—	—	—	—	—	14 人	—	1 人	—
計	9 個班	9 人	9 人	20 人	9 人	19 人	2 人	39 人	6 人	12 人	6 チーム

※ 1 日赤災害医療コーディネーターチーム

日赤災害医療コーディネーターチームは、災害時に効果的・効率的に関係機関との連携及び救護班の活動調整等を実施することを目的として、コーディネーターの医師を中心に、看護師、薬剤師、事務職等からなるコーディネータースタッフのおおむね 4 人で構成されている。

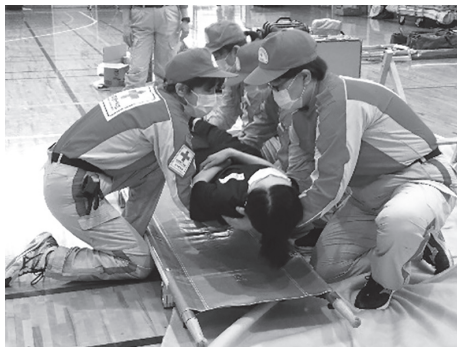
※ 2 DMAT（災害派遣医療チーム：Disaster Medical Assistance Team）

災害発生直後の急性期に活動するため厚生労働省の専門的な訓練を受けた医療チームで、医師、看護師及び業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）のおおむね 4 人で構成されている。

(2) 救護員の養成等

ア 救護員養成のための研修・訓練

区分	期日	内容	参加者
日本赤十字社栃木県支部救護担当者研修会	中止	各施設の救護担当者が救護員養成に必要な知識・技術を習熟する研修	—
日本赤十字社栃木県支部赤十字救護員養成研修 <基礎研修Ⅰ>	5月30日(月) 7月15日(金) 19日(火) 20日(水) 8月9日(火)	救護に関する講義・実技を通して救護員の基礎的な知識・技能を習得する研修	管内赤十字病院165人 栃木県支部 3人
日本赤十字社栃木県支部赤十字救護員養成研修 <基礎研修Ⅱ>	10月28日(金) 11月11日(金) 12月11日(日)	救護に関する実技や防災訓練の見学を通して救護員の基礎知識・技能を習得する研修	管内赤十字病院168人
日本赤十字社栃木県支部赤十字救護員養成研修 <集合研修>	11月24日(木) 25日(金) 30日(水) 令和5年 3月3日(金)	救護に関する講義・実技を通して救護員の総合的な知識・技能を習得する研修	管内赤十字病院 87人 栃木県支部 3人
日本赤十字社栃木県支部救護班主事研修会	6月15日(水)	災害救護活動に必要なロジスティクスの知識・技術を習熟する研修	管内赤十字施設 22人 栃木県支部 3人
日本赤十字社栃木県支部常備救護班訓練	6月23日(木) ・24日(金)	医療救護活動に必要な知識・技術の向上を目的とした訓練	管内赤十字施設 29人 栃木県支部 3人
緊急自動車安全運転合同技能研修	10月12日(水)	緊急自動車の安全運転や緊急走行に必要な知識・技術を習熟する研修	管内赤十字施設 5人 栃木県支部 1人
日本赤十字社こころのケア研修	5月21日(土) 10月7日(金) 12月17日(土) 令和5年 3月3日(金)	災害時の被災者、支援者及び救護員自身のメンタルケアに関する対処法を習得する研修	管内赤十字病院102人
日本赤十字社栃木県支部災害対策本部運営訓練	令和5年 3月6日(日)	災害対策本部の設営に必要な知識・技術の向上を目的とした訓練	栃木県支部 12人



【集合研修】



【常備救護班訓練】

イ 本社・第2ブロック支部における研修・訓練

※第2ブロック：茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨。
2Bともいう。以下同じ。

区分	期日	内容	参加者
日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練 (神奈川県支部)	11月19日(土)	災害時の第2ブロック支部管内における広域支援活動を円滑に行い、統制のとれた災害救護活動を実践するための訓練	栃木県支部 2人
日本赤十字社第2ブロック支部先遣要員訓練 (茨城県支部)	令和5年 1月16日(月) 19日(木) 20日(金)	災害時に被害状況等のアセスメント調査のため迅速に現地に派遣する要員を養成するための訓練	栃木県支部 3人
日本赤十字社第2ブロック被災地支部災害対策本部運営・支援訓練 (埼玉県支部)	令和5年 3月3日(金)	被災地支部の本部設置・運営訓練及び第2ブロック支部から被災地支部に派遣する支援要員を対象とする本部設置・運営訓練	—
日本赤十字社こころのケア指導者養成研修	11月16日(水) ・17日(木)	日赤が実施するこころのケアに関する活動の充実及び普及指導体制の強化を目的として指導者を養成する研修	管内赤十字病院 1人
日赤災害医療コーディネーター研修 (指導スタッフ研修)	9月10日(土) ・11日(日)	日赤災害医療コーディネーター研修プログラムの検証及び指導方法等の共通認識の醸成を行い、日赤の災害医療コーディネーター体制を強化する研修	管内赤十字病院 2人
日赤災害医療コーディネーター研修	令和5年 1月21日(土) ・22日(日)	日赤災害医療コーディネーターチームの活動能力を向上させ、活動に対する考え方の共通認識を醸成する研修	管内赤十字病院 1人
日本赤十字社全国赤十字救護班研修 (指導スタッフ研修)	10月22日(土) ・23日(日)	全国赤十字救護班研修プログラムの検証及び指導方法等の共通認識の醸成を行い、日赤の救護体制を強化する研修	管内赤十字病院 2人 栃木県支部 1人



【日赤第2ブロック支部総合訓練】



【日赤第2ブロック先遣要員訓練】

ウ 自治体が実施する研修・訓練及び防災関係機関との連携を目的とする訓練

区分	期日	内容	参加者
栃木県・那須町防災図上総合訓練	8月3日(水)	栃木県及び市町並びに防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上を目的とした図上訓練	栃木県支部 1人
宇都宮市総合防災訓練	8月20日(土)	宇都宮市及び防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上を目的とした訓練	—
大規模地震時医療活動訓練	中止	首都直下地震において第2ブロック支部が相互に連携・協力した救護活動をするための訓練	—
栃木県・栃木市総合防災訓練	12月11日(日)	栃木県及び市町並びに防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上を目的とした実動訓練	管内赤十字施設 76人 栃木県支部 9人 赤十字ボランティア 22人
栃木県研修型国民保護訓練	5月26日(木)	テロ発生時の国、栃木県、市町及び防災関係機関の相互連携の強化を目的とした訓練	栃木県支部 2人
栃木県災害医療コーディネート研修	中止	県内の災害医療関係団体の顔の見える関係構築を目的とした訓練	—
栃木県 DMAT 養成研修	令和5年 3月18日(土) ・19日(日)	栃木県内の災害において活動するLDMAT隊員(※1)の養成を目的とした研修	管内赤十字施設 3人
栃木県 DMAT SCU 訓練	中止	栃木県地域防災計画のSCU(※2)運営に必要な知識・技術の向上を目的とした訓練	—

※1 L(ローカル)DMAT

栃木県内の災害発生直後の急性期に活動するため、栃木県において専門的な訓練を受けた医療チームで、医師、看護師及び業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務員)のおおむね4人で構成されている。

※2 SCU(Staging Care Unit= 広域搬送拠点臨時医療施設)

大規模な災害が発生した際、傷病者を根本治療が行える被災地外の災害拠点病院などに広域搬送するために設置される臨時の医療施設で、自治体が定めた空港、自衛隊基地、公園などに設置される。



【栃木県・栃木市総合防災訓練①】



【栃木県・栃木市総合防災訓練②】

(3) 救護装備・材料の整備

災害時に円滑な救護活動を実施するため、次のとおり整備した。

ア 地区・分区救援車（更新）（整備補助金の交付）

配備先	台数
足利市地区	1台
那珂川町分区	1台



【那珂川町分区の災害救援車】



【足利市地区の災害救援車】

イ 救護倉庫（更新）

配備先	棟数
市貝町分区	1棟



【市貝町分区の救護倉庫】

ウ 災害救護資機材（新型コロナウイルス感染症対策用資機材）

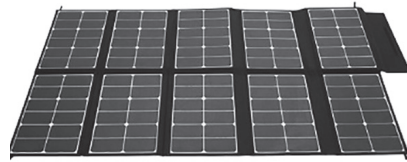
品名	数量	配備先
AED（自動体外式除細動器）	5台	栃木県支部
電子ポケット線量計	7本	栃木県支部
イヤーループマスク	1,800箱	管内赤十字病院
プラスチックグローブ	500箱	管内赤十字病院
アルコール消毒液	10本	栃木県支部
アルコール消毒綿（酒精綿）	800袋	管内赤十字病院
移動式リチウムイオン電池	5台	管内赤十字施設



【AED】



【移動式リチウムイオン電池】



展開時



折り畳み時

(4) 救援物資等の備蓄及び配布状況

ア 救援物資の備蓄状況

被災者に対し、速やかに各種救援物資を配布することができるよう次のとおり備蓄している。

令和4年度は、布団セットを212組整備した。

【令和5年3月31日現在】

品名	内容	数量
毛 布	全国統一の規格	3,188 枚
布団セット	栃木県支部独自の物資、布団一式	459 組
緊急セット	全国統一の規格、日用品など	928 個
安眠セット	全国統一の規格、キャンプマットなど	233 組



【毛布】



【緊急セット】



【安眠セット】

イ 救援物資等の配布状況

被災者に対し、次のとおり救援物資等を配布した。

区分	件数(件)	毛布(枚)	布団セット(組)	緊急セット(個)	安眠セット(組)	弔慰金(円)
全焼・全壊	60	108	112	53	0	160,000
半焼・半壊	18	32	34	16	0	20,000
流 出	0	0	0	0	0	0
避 難	0	0	0	0	0	0
計	78	140	146	69	0	180,000

ウ 救援物資等の地区区分別配布状況は55ページの資料8のとおりである。

エ 救援物資等の月別配布状況は56ページの資料9のとおりである。

(5) 赤十字防災ボランティアの育成等

ア 赤十字防災ボランティア養成のための研修会

当支部が行う災害救護活動に参加しようとする一般の方々を対象に、災害時に必要な知識・技術の習得を目的とした研修会を次のとおり開催した。

区分	期日	内容	参加者
第1回赤十字防災ボランティア養成研修会	10月18日(火)	防災・減災を含む救護活動に必要な知識・技術の習得を通じ、赤十字活動にご協力いただける防災ボランティアを養成する	受講者 2人 防災ボランティア 6人 栃木県支部 3人
第2回赤十字防災ボランティア養成研修会	令和5年 1月22日(日)	研修	受講者 3人 防災ボランティア 9人 栃木県支部 2人



【パイプテントの設営を体験する参加者】



【炊き出しを体験する参加者】

イ 登録赤十字防災ボランティアのための研修

当支部に登録している赤十字防災ボランティアの知識・技術の向上を目的とした研修会を次のとおり開催した。

区分	期日	内容	参加者
登録赤十字防災ボランティア・スキルアップ研修	9月3日(土)	災害ボランティア活動や日赤医療救護活動の支援に必要な知識・技術の習得を目的とした研修	防災ボランティア 12人 栃木県支部 3人
登録赤十字防災ボランティア・フォローアップ研修	令和5年 2月12日(日)	赤十字ボランティアとして必要な国際人道法の基礎的な知識を、ウクライナ人道危機を題材に習得する研修	防災ボランティア 19人 栃木県支部 3人 本社 1人
登録赤十字防災ボランティア新規登録者研修	令和5年 2月12日(日)	日赤の現況及び災害救護活動への理解を深め、防災・減災の普及啓発の基礎的な知識・技術を習得する研修	防災ボランティア 11人 栃木県支部 3人



【国際人道法を学ぶ講義】



【リフトテントの設営を学ぶ研修】

ウ 赤十字防災ボランティアの登録

当支部の災害救護活動に協力を申し出ている個人の赤十字防災ボランティアの登録状況は次のとおりである。【令和5年3月31日現在】

防災ボランティアリーダー	6人
防災ボランティア（上記リーダーを含む合計）	41人

(6) 日本赤十字社防災教育事業

ア 赤十字防災セミナー

地域コミュニティにおける防災・減災の取り組みを強化し、「自助」・「共助」の力を高めるセミナーを次のとおり実施した。

区分／内容	期日	受講対象者・団体	参加者
災害の備え（通常版）	9月6日（火）	栃木県身体障害者福祉連合会会員	防災ボランティア 43人 栃木県支部 1人
日本赤十字社の紹介 災害の備え（通常版） 炊き出し	9月11日（日）	壬生町六美南部自治会員	受講者 23人 栃木県支部 2人
日本赤十字社の紹介 災害の備え（通常版）	令和5年 1月24日（火）	上三川町自主防災組織 役員	受講者 24人 栃木県支部 2人
災害図上訓練（DIG） ／大雨・土砂	令和5年 1月29日（日）	栃木県立学悠館高等学校 生徒・職員	受講者 22人 防災ボランティア 1人 栃木県支部 5人
災害図上訓練（DIG） ／津波	令和5年 2月6日（月）	とちぎ海浜自然の家職員	受講者 23人 防災ボランティア 6人 栃木県支部 4人 茨城県支部 2人
災害の備え（通常版）	令和5年 2月18日（土）	日光市豊岡地区自治会員	受講者 55人 栃木県支部 2人
災害の備え（短縮版）	令和5年 2月19日（日）	細谷・上戸祭自治会員	受講者 79人 栃木県支部 2人
災害の備え（短縮版）	令和5年 2月26日（日）	細谷・上戸祭自治会員	受講者 108人 栃木県支部 2人



【DIGで防災マップを作成】



【DIGで地域の特性を発表】

イ 防災教育指導者のための研修

当支部の赤十字防災教育事業の充実及び普及体制の強化を目的として、日本赤十字社本社が主催する研修に次のとおり参加した。

区分	期日	内容	参加者
日本赤十字社防災教育事業主任指導者研修	11月8日(火)	事業方針の共有や新カリキュラムの体験を通して、防災教育事業の自助・共助・公助のあり方を学ぶ研修	栃木県支部 1人
日本赤十字社防災教育事業本社指導者養成研修	10月6日(木) ・7日(金)	防災教育の企画・運営に必要な知識・技術を習得し、防災教育指導者を養成する研修	栃木県支部 1人

(7) 青少年赤十字防災教育事業

青少年赤十字では、授業で活用できる防災教育プログラムの普及に取り組んでいる。

詳しくは、29ページの「4 青少年赤十字(8)」のとおりである。

2 救急法等の講習

赤十字における平時の事業として、「救急法」等を普及するため、次のとおり実施した。

(1) 各講習の実施状況

県民のニーズにあわせ、「基礎講習」、「養成講習」及び基礎講習又は養成講習の内容の一部を2時間程度で学ぶ「短期講習」に区分して実施した。

ア 救急法

日常生活における事故防止、不慮の事故や急病に対する医師・救急隊員に引き継ぐまでの手当などについて学ぶ講習を実施した。

(ア) 基礎講習（4時間30分）

内容：心肺蘇生、AEDの使用法、気道異物除去等の一次救命処置の手順

(イ) 救急員養成講習（10時間）

内容：赤十字救急法救急員について、急病、けが、きずの手当、骨折の手当、搬送、救護

(ウ) 短期講習

内容：基礎講習又は救急員養成講習の内容から希望のあった項目



【児童・生徒のための短時間プログラム】



【養成講習：きずの手当】

イ 水上安全法

水上における事故防止、溺れた人の救助や医師や救急隊員に引き継ぐまでの手当などについて学ぶ講習を実施した。

(ア) 救助員Ⅰ養成講習（14時間）

内容：赤十字水上安全法について、水と生活、水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、救助・応急手当

(イ) 短期講習

内容：救助員Ⅰ養成講習の内容から希望のあった項目



【短期講習：室内でプールの安全管理】



【救助員Ⅰ養成講習：溺者救助】

ウ 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために必要な知識・技術のほか、高齢者の自立した生活を目指し、家庭や地域社会の中での支援や介護の方法について学ぶ講習を実施した。

(ア) 支援員養成講習 (12 時間)

内容：高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援、日常生活における介護（居室の環境、からだの動かし方、食事・排泄・着替え・清潔の介助、認知症高齢者への対応、人生のエンディング、癒しのハンドケア、介護者の健康管理）

(イ) 短期講習

・災害時高齢者生活支援講習

内容：災害が被災者（特に高齢者）に及ぼす影響、気をつけたい病気や症状、知って役立つ支援の知識・技術、接するときのこころづかい、ボランティアの心得

・地域で支える認知症

内容：認知症とは、認知症の主な症状と対応方法、予防と早期発見、地域で支えるために

・その他の短期講習

社会福祉に関わる事業として、地域包括支援センターの高齢者サロン等において短期講習を実施した。

内容：支援員養成講習の内容から希望のあった項目



【フレイル予防の運動】



【感染予防の手洗いチェック】

エ 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気の対処のほか、乳幼児の心肺蘇生と AED の使い方などについて学ぶ講習を実施した。

なお、依頼者の求めに応じ、一部オンライン形式による短期講習を実施した。

(ア) 支援員養成講習 (10 時間)

内容：赤十字幼児安全法について、子どもについて、子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気と看病のしかた、子育てにおける社会資源の活用について

(イ) 短期講習

内容：支援員養成講習の内容から希望のあった項目



【乳幼児の胸骨圧迫と AED の操作】

【令和 4 年度各講習実施状況】

講習名	養成講習			基礎講習		短期講習		総受講者数 (人)
	実施回数 (回)	受講者数 (人)	合格者数 (人)	実施回数 (回)	受講者数 (人)	実施回数 (回)	受講者数 (人)	
救急法	19	420	419	52	1,031	124	3,932	5,383
水上安全法	1	14	13			10	207	221
雪上安全法	0	0	0			0	0	0
健康生活 支援講習	1	12	11			36	1,212	1,224
幼児安全法	5	133	129			32	763	896
計	26	579	572	52	1,031	202	6,114	7,724

(2) 指導員の養成等

ア 講習別指導員在籍状況

(人)

	赤 十 字 職 員			ボランティア	合計
	支部職員	病院職員	血液センター職員		
救 急 法	11	65	3	61	140
水 上 安 全 法	0	0	0	10	10
雪 上 安 全 法	1	0	0	1	2
健康生活支援講習	2	34	0	9	45
幼 児 安 全 法	4	26	1	14	45
計	18	125	4	95	242

イ 講師研修

講習指導方法の伝達を主たる目的として、日本赤十字社本社が主催する研修に次のとおり参加した。

(ア) 赤十字救急法及び雪上安全法講師研修会

- ・期 日 令和5年 1 月 24 日 (火)・25 日 (水)
- ・参加者 救急法講師：4 人
- ・内 容 講習実施状況の報告及び講習事業の方針について
オートショック AED について

(イ) 赤十字幼児安全法講師研修会

- ・期 日 令和5年 1 月 11 日 (水)・12 日 (木)
- ・参加者 幼児安全法講師：4 人
- ・内 容 講習事業方針について
幼児安全法を深める
避難生活支援講習ハンドブックについて
講演「だれもが助けてと言えるには」

(ウ) 赤十字健康生活支援講習講師研修会

- ・期 日 令和5年 1 月 10 日 (火)・11 日 (水)
- ・参加者 健康生活支援講習講師：4 人
- ・内 容 講習事業の現状と事業方針の理解
これからの健康生活支援講習を考える
避難生活支援講習ハンドブックについて
講演「人生 100 年時代、最後まで暮らし慣れた地域で生きるために」

(エ) 赤十字水上安全法講師研修会

- ・期 日 令和4年10月6日(木)・7日(金)
- ・参加者 水上安全法担当者：1人
- ・内 容 講習事業方針について
水上安全法講習教本の改定にかかる伝達について

ウ 指導員研修

各講習の指導に関する知識・技術の共通理解及び指導員の資質の向上を図ることを目的として、次のとおり実施した。

講習名	期 日	会 場	対象者・実施方法
救 急 法	令和5年 2月7日(火) 9日(木) 18日(土) 19日(日)	栃木県支部	ボランティア指導員：参集 施設指導員：文書
幼児安全法	令和5年 2月7日(火) 19日(日)	栃木県支部	ボランティア指導員：参集 施設指導員：参集
健康生活 支援講習	—	—	全指導員：文書
水上安全法	令和5年 3月11日(土)	大田原市立黒羽中 学校屋内温水プール	全指導員：参集

エ 講習関係会議・研修会

(ア) 日本赤十字社栃木県支部救急法等講習普及事業連絡会

管内赤十字施設が連携し、総合的な普及強化及び講習の円滑な実施を目的とした会議であり、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、オンライン形式により開催した。

- ・第1回 4月27日(水)
- ・第2回 11月10日(木)

(イ) 第2ブロック支部事業推進担当課長会議

新型コロナウイルス感染症の影響下での講習普及の対応について協議を行う会議であり、新型コロナウイルス感染症の感染防止のためオンライン形式により開催され、次のとおり出席した。

- ・7月26日(火) 担当課長、担当者2人

(ウ) 赤十字講習担当者研修会

各都道府県支部の講習担当者が、業務意識や講習事務知識を共有し、担当者としてのスキルアップを図るとともに、現状の講習事業の実態を把握し、効果的な講習事業の展開について講習担当者間で共有することを目的として日本赤十字社本社が主催する研修会であり、次のとおり参加した。

- ・7月4日(月) 担当者1人

オ 幼児安全法講習講師研究会

日本赤十字社本社において講師養成講習及び講師研修における指導方針、教本並びに指導要領に関する実務的な検討作業を行うための研究会であり、次のとおり参加した。

- ・ 6 月 8 日 (水)・ 9 日 (木) 幼児安全法講師 1 人

カ 救急法等講師養成講習

日本赤十字社本社において、各支部における救急法等指導員を養成するために必要な資格を取得するための講習が実施され、次のとおり参加した。

- ・ 幼児安全法講師養成講習 11 月 15 日 (火) ～ 17 日 (木) 1 人
- ・ 救急法講師養成講習 11 月 29 日 (火) ～ 12 月 1 日 (木) 2 人

3 赤十字奉仕団、ボランティア活動

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティアの組織である。

市町の地域ごとに組織されている「地域赤十字奉仕団」、社会人や学生などによって組織されている「青年赤十字奉仕団」、また、無線や看護職など専門技術を持った人たちや特定の活動のために集まった人たちによって組織されている「特殊赤十字奉仕団」がある。

奉仕団の活動は、赤十字事業の推進に不可欠であるため、団員の育成とあわせて奉仕団活動の充実強化に努め、主体的に活動できるよう支援している。

(1) 奉仕団の状況及び活動

ア 地域赤十字奉仕団

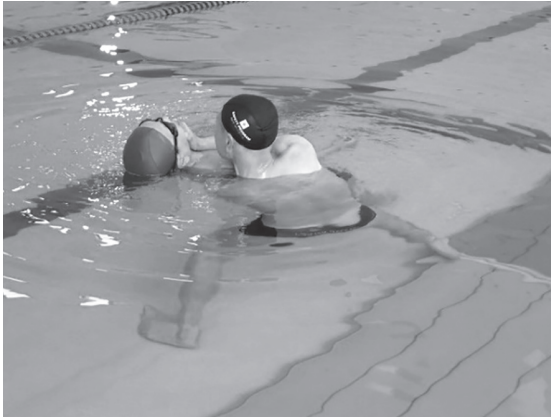
赤十字ボランティア活動を通じて、地域社会を住み良くしようという気持ちを持った人たちによって組織され、活動を行っており、各種会議及び研修会に出席したほか、赤十字新聞の発送なども行った。

イ 青年赤十字奉仕団

学生や社会人によって構成され、あすの赤十字を築くため、地域赤十字奉仕団とは異なった立場でボランティア活動を行っており、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターへの協力、NHK 海外たすけあい街頭募金などを行った。

ウ 赤十字水上安全法奉仕団

水上安全法救助員及び水上安全法指導員の有資格者によって組織されており、支部主催をはじめ、各地区分区、学校、幼稚園・保育所等の要請による講習会において、水上安全法の普及啓発と指導を行った。



【溺者に対する気道確保】



【溺者を陸に上げる】

エ 赤十字救急法奉仕団

救急法基礎講習修了者、救急法救急員、幼児安全法支援員及び救急法等指導員の有資格者によって組織されており、救急法講習会において指導を行った。

また、令和4年度は、栃木県総合防災訓練及び佐野プレミアム・アウトレットで開催された「はたらくるま」イベントにおいて、心肺蘇生とAEDの使用法の講習を行った。



【栃木県総合防災訓練：心肺蘇生体験】



【「はたらくるま」：赤十字パズルに挑戦】

オ 赤十字看護奉仕団

県内に在住する看護師の有資格者によって組織され、活動を行っており、奉仕活動を推進するため、研修会を開催し、毎月の定例会において団員間の情報交換を行っている。

また、令和4年度は、栃木県総合防災訓練において災害時高齢者生活支援講習を実施するとともに、地域包括支援センターとの連携による健康生活支援講習短期プログラムの指導をサポートした。



【健康生活支援講習短期プログラムのサポート】 【栃木県総合防災訓練：新聞紙スリッパ作成】

カ アマチュア無線奉仕団

アマチュア無線の有資格者によって組織され、災害時に情報収集と非常無線通信業務を担当し、救護活動に協力するとともに、技術の向上を図るため、通信訓練を実施しており、他支部奉仕団との非常通信訓練に参加・協力するなどの活動を行った。

キ 接骨・整骨災害救護奉仕団

柔道整復師の有資格者によって組織され、災害時にその技術を発揮して負傷者の救護を行っており、講習会や研修会を開催し、災害時に地域住民と接骨・整骨災害救護奉仕団が協力していち早く救護ができるよう、技術の研鑽を図った。

ク 赤十字介護奉仕団

介護ボランティアに賛同する者によって組織され、活動を行っているが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、活動を休止した。

ケ 栃木県青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字指導者のOBによって組織され、活動を行っており、各種会議の出席や青少年赤十字加盟促進活動、青少年赤十字創設100周年記念誌発刊への協力などを行った。

コ 栃木県赤十字健康生活支援奉仕団

健康生活支援講習指導員の有資格者によって組織され、各地区分区、地域包括支援センター等の要請による講習において指導を行った。

(2) 奉仕団会議等の開催

奉仕団の全体的な連絡調整、活動の充実等を図るため、次の会議等が開催された。

ア 赤十字奉仕団栃木県支部委員会

期 日	4 月 12 日 (火)
会 場	とちぎ福祉プラザ 第 2 研修室
出 席 者	赤十字奉仕団栃木県支部委員会委員…………… 18 人 支部指導講師…………… 3 人 栃木県支部…………… 9 人 計…………… 30 人
実施内容	令和 3 年度事業報告、令和 4 年度奉仕団関係行事予定報告、赤十字奉仕団中央委員会報告、第 2 ブロック支部赤十字奉仕団委員長会議報告

イ 赤十字奉仕団中央委員会

期 日	5 月 30 日 (月)・31 日 (火)
会 場	日本赤十字社本社
出 席 者	赤十字奉仕団栃木県支部委員会委員長…………… 1 人
実施内容	各ブロック赤十字奉仕団委員長会議の報告、令和 4 年度日本赤十字社事業計画について、意見交換会

ウ 日本赤十字社第 2 ブロック支部赤十字奉仕団委員長・担当課長会議

期 日	11 月 21 日 (月)
開催形式	オンライン
出 席 者	赤十字奉仕団栃木県支部委員会副委員長…………… 1 人 栃木県支部…………… 2 人 計…………… 3 人
実施内容	協議事項

(3) 赤十字ボランティア研修

奉仕団の活性化及び活動の強化を図るため、次の研修会が開催された。

ア 赤十字ボランティア基礎研修会

赤十字ボランティアとしての自覚を持ち、意識の高揚を図るとともに、活動するために必要な知識・技術を身に付けることを目的として、当支部及び地区分区が次のとおり開催した。

期 日	9 月 20 日 (火)
会 場	栃木県支部実習室
参 加 者	奉仕団員…………… 14 人 防災ボランティア…………… 4 人 支部指導講師…………… 2 人 栃木県支部…………… 4 人 計…………… 24 人
実施内容	「赤十字について」及び「赤十字奉仕団について」の講義、各奉仕団活動発表及び意見交換

期 日	11 月 14 日 (月)
会 場	老人福祉センター (野木町)
参 加 者	野木町赤十字奉仕団員…………… 17 人 野木町分区担当職員…………… 2 人 支部指導講師…………… 1 人 栃木県支部…………… 3 人 計…………… 23 人
実施内容	「赤十字について」及び「赤十字奉仕団について」の講義、非常食炊き出し、赤十字健康生活支援講習 (短期プログラム)

期 日	令和 5 年 2 月 24 日 (金)
会 場	真岡市公民館
参 加 者	真岡市赤十字奉仕団員…………… 21 人 真岡市地区担当職員…………… 1 人 支部指導講師…………… 1 人 栃木県支部…………… 3 人 計…………… 26 人
実施内容	「赤十字について」及び「赤十字奉仕団について」の講義、非常食炊き出し、赤十字健康生活支援講習 (短期プログラム)



【赤十字ボランティア基礎研修会】

イ 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会

赤十字ボランティアとしての意識と自覚をより一層高め、赤十字ボランティアのリーダーとして必要な知識・技術を更に深めることを目的として、次のとおり開催した。

期 日	令和5年3月1日(水)
会 場	栃木県支部実習室
参 加 者	奉仕団員…………… 13人 支部指導講師…………… 3人 栃木県支部…………… 3人 計…………… 19人
実施内容	「赤十字について」、「赤十字ボランティア活動のリーダーについて」及び「リーダーシップについて」の講義

ウ 赤十字ボランティア・リーダー研修会

赤十字運動の推進リーダーとして、赤十字活動についての理解をより一層深めるとともに、赤十字マインドを持ったボランティアとして平時及び災害発生時に地域の人道ニーズを捉えた活動を行う力を養うことを目的として開催され、次のとおり参加した。

期 日	令和5年1月28日(土)～30日(月)
会 場	日本赤十字社本社
参 加 者	高根沢町赤十字奉仕団員…………… 1人
実施内容	「赤十字について」、「赤十字の基本方針と奉仕団活動について」及び「赤十字奉仕団とリーダーについて」の講義、活動計画書の作成

エ 赤十字奉仕団指導講師研修会

支部指導講師が中心となって、奉仕団を対象とした研修会を実施するために必要な知識・技術を習得するとともに、各地域でのボランティア活動の指導・助言ができるようになることを目的として開催され、次のとおり参加した。

期 日	令和5年1月28日(土)～30日(月)
会 場	日本赤十字社本社
参 加 者	栃木県青少年赤十字賛助奉仕団員…………… 1人
実施内容	「プレゼンテーションを学ぶ」及び「研修の考え方・研修手法」についての講義、講座展開案の作成

(4) 赤十字防災ボランティア

災害救護活動を目的とした個人の赤十字防災ボランティアが登録されている。
詳しくは、7 ページの「1 災害救護 (5)」のとおりである。

(5) 第 77 回国民体育大会及び第 22 回全国障害者スポーツ大会におけるボランティア活動

令和 4 年 10 月に栃木県で開催された第 77 回国民体育大会及び第 22 回全国障害者スポーツ大会において、医療救護ボランティアとして多くの奉仕団員及び防災ボランティアが活動し、円滑な大会運営に貢献した。

区分	期日	内容	参加者
第 77 回国民体育大会 (いちご一会とちぎ国体)	9 月 24 日 (土) (総合リハーサル)	会場内に設置された救護所での救護活動の補助、来場者等の傷病者の早期発見と救護所への搬送	救急法奉仕団 38 人 接骨・整骨災害救護奉仕団 25 人 水上安全法奉仕団 9 人 防災ボランティア 18 人
	10 月 1 日 (土) (総合開会式)		
11 日 (火) (総合閉会式)			
第 22 回全国障害者スポーツ大会 (いちご一会とちぎ大会)	10 月 22 日 (土) (総合リハーサル)		救急法奉仕団 27 人 接骨・整骨災害救護奉仕団 16 人 水上安全法奉仕団 4 人 防災ボランティア 22 人 アマチュア無線奉仕団 6 人
29 日 (土) (開会式)			
31 日 (月) (閉会式)			



【大会実行委員会会長（栃木県知事）から感謝状が贈呈される】

(6) 赤十字奉仕団の結成状況 令和 4 年度現在（4 年に一度の一斉登録で更新）

ア 地域赤十字奉仕団

団 数 (団)	団 員 数 (人)		
	男	女	計
19	19	1,223	1,242

イ 青年赤十字奉仕団

分団数 (団)	団 員 数 (人)		
	男	女	計
1	3	11	14

ウ 特殊赤十字奉仕団

奉 仕 団 名	団数 (団)	団員数 (人)		
		男	女	計
アマチュア無線奉仕団	1	21	1	22
救急法奉仕団	1	48	114	162
水上安全法奉仕団	1	12	4	16
看護奉仕団	1	0	25	25
介護奉仕団	1	0	12	12
接骨・整骨災害救護奉仕団	1	369	9	378
栃木県青少年赤十字賛助奉仕団	1	29	9	38
栃木県赤十字健康生活支援奉仕団	1	0	44	44
計	8	479	218	697

4 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加することを通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的とした事業である。

青少年赤十字は教師等を指導者として、幼稚園・保育所、小・中・高等学校や特別支援学校等に取り入れられ、その教育活動とともに展開されているところに特徴がある。

児童・生徒は青少年赤十字メンバーとして、「気づき、考え、実行する」という自主・自立の態度目標に基づき、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ、児童・生徒の発達段階や学校内外の実情に応じた様々な活動に取り組んでいる。

(1) 加盟校の状況

	加盟校数 (校・園・所)	前年比 (校・園・所)	令和4年度メンバー数 (人)			令和3年度 メンバー数 (人)	前年比 (人)
			男	女	計		
幼稚園・保育所	7	0	457	464	921	893	28
小学校	26	4	2,494	2,498	4,992	4,875	117
中学校	33	△1	5,688	5,268	10,956	11,736	△780
高等学校	30	△1	186	765	951	1,026	△75
特別支援学校	11	4	1,157	598	1,755	892	863
計	107	6	9,982	9,593	19,575	19,422	153

加盟形態：幼稚園・保育所、小学校及び中学校は主に全校加盟、高等学校はクラブ加盟（部活）

(2) 会議の開催等

ア 栃木県青少年赤十字指導者協議会総会

6月2日（木）にとちぎ福祉プラザ第2研修室で総会が開催され、令和3年度の事業報告及び収入支出決算、令和4年度の事業計画（案）及び収入支出予算（案）の承認、役員改選等が行われた。

また、永年指導者及び退職指導者に栃木県支部長から感謝状を贈呈した。

イ 栃木県青少年赤十字指導者協議会幹事会・役員会

幹事会については4月27日（水）に、役員会については5月12日（木）に、栃木県支部実習室で開催された。

令和3年度の事業報告及び収入支出決算、令和4年度の事業計画（案）及び収入支出予算（案）、役員改選等に関する審議が行われ、総会にかけられることとなった。

ウ 青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会

各都道府県青少年赤十字指導者協議会会長が相互の連絡を緊密にするとともに、各地で取り組まれる青少年赤十字の指導・運営等に関する諸事項を研究・協議し、青少年赤十字の健全な発展と普及促進を図ることを目的として開催され、次のとおり出席した。

期 日	6月29日（水）
開催形式	オンライン
出席者	栃木県青少年赤十字指導者協議会会長…………… 1人
実施内容	役員改選、各種報告事項、グループディスカッション

エ 第2ブロック青少年赤十字指導者協議会総会・研究集会

第2ブロック内の各都県支部青少年赤十字指導者が、日頃の実践活動の報告及び青少年赤十字活動の効果的な進め方について研究協議することにより、今後の活動の充実発展を図ることを目的として開催され、次のとおり出席した。

期 日	8月19日（金）
開催形式	オンライン及び書面
出席者	青少年赤十字指導者…………… 5人 栃木県支部…………… 2人 計…………… 7人
実施内容	事業報告、役員改選、研究発表（野木町立野木第二中学校）

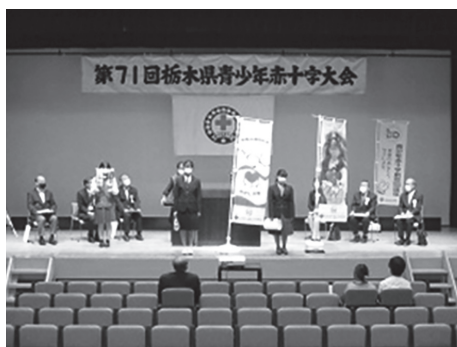
(3) 青少年赤十字創設 100 周年第 71 回栃木県青少年赤十字大会

県下の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の青少年赤十字メンバー代表が一堂に集まり、親善を深めるとともに、青少年赤十字の一員としての意識を高め、今後の活動の励みとすることを目的として開催しており、令和 4 年度は青少年赤十字 100 周年記念事業として次のとおり開催した。

期 日	10 月 15 日 (土)
会 場	宇都宮市東生涯学習センター
参 加 者	青少年赤十字メンバー…………… 58 人 青少年赤十字メンバー保護者…………… 3 人 青少年赤十字指導者…………… 16 人 栃木県教育委員会…………… 2 人 栃木県青少年赤十字賛助奉仕団…………… 4 人 パネルディスカッションパネリスト (青少年赤十字卒業生) …… 6 人 栃木県支部…………… 3 人 計…………… 92 人
実施内容	来賓祝辞、新加盟校の紹介、永年加盟校の表彰、青少年赤十字創設 100 周年記念品デザイン表彰、活動発表、交流、パネルディスカッション「わたしと青少年赤十字」

表彰受章校

日本赤十字社栃木県支部長感謝状 (加盟 5 年以上)	宇都宮市立西原小学校
日本赤十字社金色有功章 (加盟 20 年以上)	鹿沼市立南押原小学校
日本赤十字社社長感謝状 (金色有功章受章後 10 年以上)	那須烏山市立烏山小学校



【100 周年記念品デザイン表彰】



【パネルディスカッション】

(4) 研修会・研究会の開催等

ア 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

青少年赤十字加盟校のメンバーを対象に、リーダーとして必要な自主・自立の精神を身に付け、赤十字や青少年赤十字に関する知識・技術を集中的に学習し、生活態度全般にわたる人間形成の場となることを目的として、中学部メンバー及び高等部メンバーを対象に次のとおり開催した。なお、小学部メンバーについては新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止した。

中学部メンバー

期 日	8月8日(月)・12日(金)
開催形式	オンライン
参 加 者	8月8日(月) 青少年赤十字メンバー…………… 49人 青少年赤十字指導者…………… 17人 青少年赤十字指導者(指導スタッフ)… 4人 栃木県支部…………… 3人 計…………… 73人
	12日(金) 青少年赤十字メンバー…………… 49人 青少年赤十字指導者…………… 17人 青少年赤十字指導者(指導スタッフ)… 4人 栃木県青年赤十字奉仕団員…………… 3人 栃木県支部…………… 2人 計…………… 75人
実施内容	「リーダーとは」、「赤十字・青少年赤十字」、「防災教育プログラム」及び「健康安全プログラム」についての学習、学校紹介、活動計画の作成・発表



【青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(中学部)】

高等部メンバー

期 日	8月9日(火)・10日(水)
会 場	とちぎ福祉プラザ 第1・2研修室
参 加 者	8月9日(火) 青少年赤十字メンバー…………… 17人 青少年赤十字指導者…………… 5人 青少年赤十字指導者(指導スタッフ)… 5人 栃木県青年赤十字奉仕団員…………… 2人 栃木県支部…………… 5人 計…………… 34人
	10日(水) 青少年赤十字メンバー…………… 27人 青少年赤十字指導者…………… 4人 青少年赤十字指導者(指導スタッフ)… 5人 栃木県青年赤十字奉仕団員…………… 3人 栃木県支部…………… 4人 計…………… 43人
実施内容	「ボランティアとリーダーシップ」、「赤十字と青少年赤十字」、「防災教育プログラム」及び「健康安全プログラム」についての学習、ボランティアサービス、フィールドワーク、活動計画の作成



【青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（高等部）】

イ 栃木県青少年赤十字高等部リーダー研修会

各高等学校における青少年赤十字活動のより一層の促進を図るため、高等部リーダーの青少年赤十字に関するより高度な知識・技術の修得を目的として、次のとおり開催した。

期 日	12月25日（日）	
会 場	とちぎ福祉プラザ 第2研修室	
参 加 者	青少年赤十字メンバー	10人
	青少年赤十字指導者	2人
	青少年赤十字指導者（指導スタッフ）	4人
	栃木県支部	2人
	計	18人
実施内容	「国際人道法」及び「防災教育プログラム」についての学習、活動発表、活動計画の作成	



【栃木県青少年赤十字高等部リーダー研修会】

ウ 栃木県青少年赤十字指導者養成研修会

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」について理解を深めるとともに、青少年赤十字の効果的な指導運営に必要な知識・技術を修得し、青少年赤十字活動の推進を図ることを目的として例年開催しているが、令和4年度は参加申込者少数のため、中止した。

エ 栃木県青少年赤十字指導者研究会

青少年赤十字指導者の青少年赤十字に対する意識の高揚と資質の向上を目的として、次のとおり開催した。

期 日	令和5年2月16日(木)
開催形式	参集(栃木県支部実習室)及びオンライン
参加者	青少年赤十字指導者…………… 14人 栃木県教育委員会等…………… 4人 栃木県青少年赤十字賛助奉仕団…………… 4人 栃木県支部…………… 5人 講師(野木第二中学校教諭、赤十字国際委員会駐日代表部広報統括官) …… 2人 計…………… 29人
実施内容	「青少年赤十字防災教育プログラムについて」及び「ウクライナ人道危機と赤十字の活動について」についての講義

オ 青少年赤十字スタディー・プログラム

高等学校の青少年赤十字活動の中心となるリーダーを養成することを目的として日本赤十字社本社が主催する研修会であり、次のとおり参加した。

期 日	令和5年3月21日(火)・25日(土)
開催形式	オンライン(3月21日)・参集(日本赤十字社本社)(3月25日)
参加者	令和5年3月21日(火) 青少年赤十字メンバー…………… 2人 青少年赤十字指導者…………… 1人 栃木県支部…………… 1人 計…………… 4人 令和5年3月25日(土) 青少年赤十字メンバー…………… 2人 青少年赤十字指導者…………… 1人 計…………… 3人
実施内容	「多様性を尊重した共生社会」についての学習、ホームルーム

(5) 栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会

各学校の活動促進と情報の交換を目的として、青少年赤十字の高等部メンバーにより組織されており、次のとおり活動した。

期 日	活動名	会 場	内 容
6月12日(日)	新入生歓迎会	とちぎ青少年センター	年間活動報告、交流会
12月10日(土)	NHK 海外たすけあい街頭募金活動	ベルモール	街頭募金活動
令和5年 1月29日(日)	茨城・栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会交流会	日本赤十字社茨城県支部	活動報告、交流会
令和5年 2月25日(土)	栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会冬季大会、福島県・栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会交流会	オンライン形式	活動報告、東日本大震災後の福島の現状について福島県メンバーからの発表、気候変動による問題について考えるグループワーク



【新入生歓迎会】



【NHK 海外たすけあい街頭募金】



【茨城・栃木県青少年赤十字
高等学校連絡協議会交流会】



【福島県・栃木県青少年赤十字
高等学校連絡協議会交流会】

(6) 広報活動

栃木県内の加盟校の機関紙「私たちの青少年赤十字 2023」を発行し、青少年赤十字活動を県内の学校等に紹介した。

(7) 国際交流活動

ア 北関東三県支部（茨城・栃木・群馬）青少年赤十字国際交流派遣事業

青少年赤十字活動の交流を通じ、国際理解・親善を図ることを目的として令和元年度まで実施していたが、令和2年度以降中止しており、令和4年度は群馬県支部と合同で次のとおり代替事業を実施した。

期 日	9月17日（土）
会 場	日本赤十字社群馬県支部
参 加 者	青少年赤十字メンバー…………… 10人 青少年赤十字指導者…………… 3人 栃木県支部…………… 2人 計…………… 15人
実施内容	事前課題発表、ベトナム及びペルー出身の方による講演（ベトナム、ペルーの特色と日本との文化の違いについて）、グループワーク

事後研修会

期 日	10月29日（土）
開催形式	オンライン
参 加 者	青少年赤十字メンバー…………… 8人
	青少年赤十字指導者…………… 2人
	栃木県支部…………… 2人
	計…………… 12人
実施内容	グループワーク

イ 国際交流事業

国際理解・親善の理解を深め、学校や地域における青少年赤十字活動に活かすことを目的に日本赤十字社本社が主催する事業であり、次のとおり参加した。

期 日	10月2日（日）（第1部）・11月5日（土）・6日（日）（第2部）
開催形式	オンライン
参 加 者	10月2日（日）（第1部） 参加者なし
	11月5日（土）・6日（日）（第2部）
	青少年赤十字メンバー…………… 2人
	青少年赤十字指導者…………… 1人
	栃木県支部…………… 2人
計…………… 5人	
実施内容	「気候変動の取り組みについて」の学習、グループワーク

(8) 防災教育事業

青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育を通して災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めることで、人間のいのちと健康、尊厳を守るために開発された防災教育プログラムの普及に取り組んだ。

(9) 加盟促進

令和5年2月に栃木県教育委員会事務局主管課長から各市町教育委員会学校教育主管課長及び各県立学校長あてに、加盟促進についての通知が発出された。

(10) 青少年赤十字創設 100 周年記念事業

青少年赤十字創設 100 周年を記念し、次の事業を実施した。

ア 県内統一街頭募金活動

期 日	7月31日(日)
会 場	道の駅やいた、ベルモール、道の駅思川
参 加 者	青少年赤十字メンバー..... 37人
	青少年赤十字指導者..... 6人
	栃木県支部..... 3人
	計..... 46人
実施内容	ウクライナ人道危機救援金街頭募金

イ 記念品の作成

青少年赤十字メンバーから募集したデザインで卓上のぼり旗を作成した。

なお、青少年赤十字創設100周年第71回栃木県青少年赤十字大会において、採用されたデザインを創作したメンバーに表彰状を授与した。



【宇都宮市立一条中学校 丸山みきさんデザイン】【県立小山西高等学校 中沼瑞歩さんデザイン】

ウ 寄せ書き旗

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加したメンバーが寄せ書き旗にメッセージを寄せた。



【寄せ書き旗】

エ 青少年赤十字創設 100 周年記念つながるダンスプロジェクト～踊りながらみんなとつながろう～への参加

ダンスを通じ、世界の仲間とつながりを体験することを目的として、日本赤十字社本社が実施したダンスプロジェクトに参加した。

参 加 校	県立宇都宮高等学校 県立鹿沼東高等学校 県立小山西高等学校 県立栃木女子高等学校 県立真岡女子高等学校 県立矢板高等学校
-------	---



【県立矢板高等学校】

オ 「私たちの青少年赤十字 創設 100 周年記念誌」の発刊

5 国際活動

日本赤十字社は、海外における紛争や自然災害に起因する人道危機に対し、救援の必要性が発生した場合、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟からの要請に応え、ERUを派遣するなど緊急救援を行うとともに、地域防災力の向上や公衆衛生の改善といった復興支援、長期的な視野に立った開発協力にも取り組んでいる。

(1) 開発協力事業

当支部では、日本赤十字社本社が行う国際活動に参加し、日本赤十字社北関東四県支部（茨城、栃木、群馬、埼玉）の共同事業として、資金の援助を行った。

対象国	事業内容
バングラデシュ	保健医療支援事業
インドネシア	コミュニティ防災強化事業



【バングラデシュでの活動の様子©日本赤十字社】【インドネシアでの活動の様子©インドネシア赤十字社】

(2) オンライン研修会

赤十字の世界的なネットワークを活かした支援の現状を認識するとともに、赤十字が行う国際活動への理解を深めるため、事業の概要や成果等を学ぶ研修に参加した。

区分	期日	内容	参加者
令和4年度日本赤十字社北関東四県支部海外赤十字社支援事業にかかるオンライン研修会（群馬県）	令和5年 1月29日（日）	バングラデシュ保健医療支援事業を担当する現地職員等からの活動紹介を通じ、日赤の国際活動への理解を促進する研修	防災ボランティア 2人 地区分区職員 1人 管内赤十字施設 1人 栃木県支部 3人

6 医療、血液、看護師養成

(1) 医療事業

赤十字の医療施設は、地域の中核病院としての役割・機能を果たすため、医療の質向上や医療安全対策、高度先進医療に積極的に取り組むなど、質の高い医療の提供に努めている。

また、災害医療拠点としての機能向上や災害医療に携わる人材の育成強化を図るとともに、災害発生時には、医師、看護師等により編成される救護班を被災地に派遣し、救護活動にあたっている。詳しくは、1ページの「1 災害救護（1）」のとおりである。

当支部管内には、芳賀赤十字病院、那須赤十字病院及び足利赤十字病院の3病院が設置されており、当支部では、救護活動をはじめとした各事業の展開にあたり、管内赤十字病院と連携を図るほか、関係自治体等との調整にも努めている。

ア 病院の概要（令和 5 年 4 月 1 日現在）

(ア) 芳賀赤十字病院

管 理 者	院長 本多 正徳
所 在 地	真岡市中郷 271
診 療 科 [30 科]	内科、脳神経内科、リウマチ科、腎臓内科、呼吸器内科、アレルギー科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、小児外科、形成外科、乳腺科、外科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、麻酔科、救急科、精神科、歯科、歯科口腔外科
病 床 数	364 床
職 員 数	750 人（医師 76 人、看護師 391 人、その他 283 人）※正職員のみ
開設年月日	昭和 24 年 7 月 1 日

(イ) 那須赤十字病院

管 理 者	院長 井上 晃男
所 在 地	大田原市中田原 1081 - 4
診 療 科 [29 科]	内科、呼吸器・アレルギー内科、リウマチ科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科
病 床 数	460 床
職 員 数	832 人（医師 73 人、看護師 470 人、その他 289 人）※正職員のみ
開設年月日	昭和 24 年 7 月 1 日

(ウ) 足利赤十字病院

管 理 者	院長 室久 俊光
所 在 地	足利市五十部町 284 番地 1
診 療 科 [28 科]	脳神経内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、総合診療科、神経精神科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、救急科、病理診断科
病 床 数	540 床
職 員 数	981 人（医師 101 人、看護師 547 人、その他 333 人）※正職員のみ
開設年月日	昭和 24 年 7 月 1 日

イ 患者の利用状況

(単位：人)

年度	区 分 施 設	外 来		入 院	
		新患者数	延患者数	新患者数	延患者数
令和 4	芳賀赤十字病院	13,992	161,748	7,856	111,566
	那須赤十字病院	16,068	248,716	9,818	124,810
	足利赤十字病院	26,404	270,249	13,269	189,130
	合 計	56,464	680,713	30,943	425,506
3	芳賀赤十字病院	13,696	163,776	7,591	107,611
	那須赤十字病院	15,523	242,944	10,014	131,625
	足利赤十字病院	24,415	267,979	13,044	190,969
	合 計	53,634	674,699	30,649	430,205
2	芳賀赤十字病院	12,632	154,089	7,347	108,867
	那須赤十字病院	14,087	231,848	9,775	129,056
	足利赤十字病院	23,641	259,644	13,098	190,380
	合 計	50,360	645,581	30,220	428,303
元	芳賀赤十字病院	16,755	168,055	8,672	112,064
	那須赤十字病院	17,702	250,825	11,000	144,766
	足利赤十字病院	23,607	278,952	12,831	191,649
	合 計	58,064	697,832	32,503	448,479
平成 30	芳賀赤十字病院	15,977	154,719	7,557	100,704
	那須赤十字病院	16,900	249,372	10,522	144,988
	足利赤十字病院	24,392	280,333	11,983	188,719
	合 計	57,269	684,424	30,062	434,411
29	芳賀赤十字病院	15,300	155,012	7,608	105,774
	那須赤十字病院	18,087	252,987	10,495	145,092
	足利赤十字病院	24,831	290,150	13,585	193,432
	合 計	58,218	698,149	31,688	444,298
28	芳賀赤十字病院	14,754	146,626	7,424	105,958
	那須赤十字病院	19,277	254,306	10,732	143,929
	足利赤十字病院	26,420	295,396	13,461	192,777
	合 計	60,451	696,328	31,617	442,664
27	芳賀赤十字病院	15,974	149,919	7,598	104,906
	那須赤十字病院	21,101	257,902	10,327	143,486
	足利赤十字病院	29,053	298,803	13,399	193,184
	合 計	66,128	706,624	31,324	441,576
26	芳賀赤十字病院	17,275	147,067	7,250	102,115
	那須赤十字病院	22,816	247,066	9,823	142,897
	足利赤十字病院	28,725	290,949	13,356	191,641
	合 計	68,816	685,082	30,429	436,653
25	芳賀赤十字病院	17,945	153,954	7,429	105,524
	那須赤十字病院	25,746	247,332	9,823	145,108
	足利赤十字病院	29,724	288,845	12,771	189,534
	合 計	73,415	690,131	30,023	440,166

(2) 血液事業

血液事業では、医療機関に対する安全性の高い輸血用血液製剤の安定供給を図るため、献血に関する啓発活動を行い、医療機関の需要に合わせて400mL献血及び成分献血を中心にご協力をお願いするとともに、各種検査などの様々な安全

対策を講じた上で、赤血球製剤、血小板製剤、血漿製剤などの輸血用血液製剤に調製し、全国の医療機関に365日24時間体制で輸血用血液製剤を供給している。

なお、平成24年4月から、効率的な血液確保や医療機関への的確な対応をするため、従来の都道府県単位の運営から7つのブロックを単位とする体制に移行したため、当支部管内の栃木県赤十字血液センターについては、血液検査及び製剤が関東甲信越ブロックに集約され、より安全で安心な輸血用血液製剤の安定的な供給ができる体制となった。

同センターは、献血の推進に努める中、学内献血推進に積極的に取り組んでおり、県内高校生の献血率は6年連続全国第1位（令和3年度現在）となった。

また、同センターと当支部、関係機関が連携し、献血に関する普及啓発を目的とした広報活動を展開するとともに、功労者を表彰した。

ア 栃木県赤十字血液センターの概要

所在地	宇都宮市今宮 4-6-33
出張所	宇都宮大通り出張所（明治安田生命宇都宮大通りビル 1F）
移動採血車	6台
職員数	94人（令和5年4月1日現在）※正職員のみ
開設年月日	昭和37年12月8日

イ 献血の受入状況 (人)

年度	区分	200mL	400mL	成分	合計
		献血者数	献血者数	献血者数	献血者数
令和4	栃木県全体	6,724	57,662	29,539	93,925
3	〃	7,870	57,947	31,158	96,975
2	〃	7,740	56,489	31,969	96,198

ウ 血液製剤等の供給状況 (単位)

年度	区分	全血・赤血球製剤 (※1)	血漿製剤 (※2)	血小板製剤	合計
令和4	栃木県全体	92,028	34,691	133,035	259,764
3	〃	94,407	37,820	141,540	273,767
2	〃	93,951	33,844	136,100	263,895

※1：200mL 献血由来製剤を1単位、400mL 献血由来製剤を2単位として換算

※2：200mL 献血由来製剤を1単位、400mL 献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

エ 献血思想の普及

(ア) 運動及びキャンペーン

- ・愛の血液助け合い運動（7月）
- ・はたちの献血キャンペーン（1～2月）

(イ) 第 58 回献血運動推進全国大会

令和 4 年 7 月 14 日（木）に、愛媛県松山市の愛媛県県民文化会館で第 58 回献血運動推進全国大会が開催された。本県関係受賞は、次のとおりであった。

・日本赤十字社金色有功章

受賞団体……………4 団体

献血回数 100 回以上の献血者並びに献血活動継続年数 20 年以上の献血団体・献血推進団体及び献血推進者に贈られる。

・日本赤十字社銀色有功章

受賞団体……………4 団体

献血回数 70 回以上の献血者並びに献血活動継続年数 15 年以上の献血団体・献血推進団体及び献血推進者に贈られる。

・厚生労働大臣表彰状

受賞団体……………1 団体

血液事業の推進に関し過去に大臣感謝状及び知事表彰又はこれに準ずる表彰を受け、その実績が特に優秀で他の模範と認められる団体及び個人に授与される。

・厚生労働大臣感謝状

受賞団体……………1 団体

血液事業の推進に関し過去に知事表彰又はこれに準ずる表彰を受け、その実績が特に優秀で他の模範と認められる団体及び個人に贈呈される。

(ウ) 令和 4 年度献血功労者表彰式

令和 4 年度「愛の血液助け合い運動」実施期間中の行事の一つとして、令和 4 年 7 月 25 日（月）に栃木県公館大会議室において、栃木県との共催により、令和 4 年度「献血功労者・骨髄バンク事業功労者表彰式」を開催した。献血事業の推進に功労のあった個人及び団体に対し、栃木県献血推進協議会長から感謝状及び記念品を贈呈するとともに、第 58 回献血運動推進全国大会における厚生労働大臣表彰及び日本赤十字社有功章の伝達を行った。

【令和 4 年度感謝状等総数】

・厚生労働大臣表彰状…1 団体

・厚生労働大臣感謝状…1 団体

・栃木県献血推進協議会長感謝状（団体）…16 団体

・栃木県献血推進協議会長感謝状（個人）

献血 100 回以上…158 人

献血 50 回以上…409 人

・日本赤十字社有功章

献血団体金色有功章…4 団体

献血団体銀色有功章…4 団体

- ・日本赤十字社栃木県支部長感謝状
献血団体 10 年以上…11 団体
献血団体 5 年以上…5 団体

(3) 看護師養成

日本赤十字社は、救護員となる看護師で、かつ日本赤十字社の医療施設及びその他の施設において必要な看護師を確保するため、日本赤十字看護大学等において、看護師の養成を行っている。

当支部では、平成 17 年度から日本赤十字看護大学における支部長推薦入学者選抜制度を活用し、日本赤十字看護大学看護学部（東京都渋谷区：広尾キャンパス）において看護師の養成を行ってきた。

また、令和 2 年に日本赤十字看護大学さいたま看護学部（埼玉県さいたま市：大宮キャンパス）が開設されたことから、同学部においても看護師の養成を行っている。

なお、支部長推薦入学者選抜については、令和 3 年度入学者選抜試験から赤十字特別推薦選抜に変更された。

ア 令和 4 年度における養成状況

区 分	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
看 護 学 部	0	2	3	6	11
さいたま看護学部	2	2	2	—	6
計	2	4	5	6	17

イ 赤十字特別推薦選抜入学試験

- ・第一次試験
11 月 19 日（土） 看護学部 1 人受験
- ・第一次試験合格発表
11 月 24 日（木） 合格者なし

7 赤十字思想の普及・広報

(1) 広報活動の展開

赤十字活動を広く県民の皆様にご覧いただくため、「赤十字運動月間」キャンペーン等の広報活動を実施した。

ア キャンペーンの実施

キャンペーン（5 月「赤十字運動月間」、12 月「海外たすけあい」、9 月・3 月「ACTION！防災・減災」）等を実施し、当支部、管内赤十字施設及び地区分區で広報資材を配布するなど、赤十字活動の普及啓発を行った。

赤十字運動月間用 広報資材等	配布数	主な使用目的
ポスター	800 枚	公共の場や地区分区の窓口等に掲示
パンフレット	16,000 部	自治会等での回覧
チラシ	232,000 部	県内の各世帯に配布
活動資金募集の手引き	24,600 部	活動資金の募集に携わる奉仕者等に配布
支援者シール	28,200 枚	活動資金に協力いただいた方に配布

イ 赤十字新聞の配布

会員や関係機関に赤十字新聞を配布し、赤十字活動の普及啓発に努めた。

ウ ホームページでの情報発信

ホームページで災害救護活動や講習会、義援金の受付状況などの情報を発信するとともに、フェイスブックへの記事投稿を活用し、タイムリーな活動情報を提供した。

(2) 地区分区との連携

県内各市町の赤十字の窓口である地区分区と連携して赤十字活動を推進していくため、下記のとおり会議等を開催した。

ア 支部主催会議・研修会

赤十字業務を担当する地区分区職員等を対象に、次の会議・研修会を実施した。

会議・研修会名	期 日	出席者数	会 場
日赤地区分区事務担当者 研修会	4 月 15 日 (金)	18 人	とちぎ福祉プラザ 第 2 研修室
日赤副地区長・事務担当 課長会議	令和 5 年 1 月 31 日 (火)	22 人	とちぎ福祉プラザ 第 2 研修室

イ 地区分区主催会議

地区分区主催の会議に当支部職員が出席し、活動資金の説明や表彰伝達等を行った。

地区分区名	期 日	会 場
真岡市地区	5 月 9 日 (月)	真岡市役所
宇都宮市地区	6 月 15 日 (水)	宇都宮市総合福祉センター

8 会員、活動資金

(1) 赤十字会員の増強

日本赤十字社は、会員をもって組織している法人であり、会員の納入する会費や寄付金によって活動を実施している。令和4年度も厳しい経済情勢にもかかわらず、多くの県民の皆様及び地区分区の格別なるご理解とご協力により、下記の実績を収めることができた。

ア 活動資金の募集状況

令和4年度の赤十字活動資金の募集目標額と実績額については、次表及び54ページの資料7のとおりである。

内 訳	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達成率 (%)
地区分区扱い	221,406,000	183,256,273	82.8%
支部直扱い※	33,495,000	115,498,732	344.8%
計	254,901,000	298,755,005	117.2%

※支部直扱いには、病院施設整備寄付金を含む。

イ 高額協力件数

令和4年度の活動資金へ的高額協力件数については、次のとおりである。

内 訳	100万円以上 500万円未満	500万円以上
個 人	9件	4件
法 人	6件	0件

※病院施設整備寄付金を含む。

ウ 有功章等の贈呈

赤十字活動資金に協力いただいた個人・法人等への有功章等の贈呈状況は、次のとおりである。

また、活動資金協力による有功章や国の表彰を受けられる方々に対して、5月11日(水)及び11月29日(火)に日本赤十字社有功章等伝達式を行った。

表彰の種類	受 章 者 数		
	個 人 (人)	法 人 (社)	計
紺 綬 褒 章	1	0	1
厚生労働大臣感謝状	5	1	6
日本赤十字社社長感謝状	15	15	30
金色有功章	16	10	26
銀色有功章	23	26	49
支部長表彰状・感謝状	48	39	87
特別社員章	155	81	236
計	263	172	435

※令和4年度中に贈呈が決定されたものを集計。

9 役員、評議員

(1) 栃木県赤十字有功会

赤十字有功会は、当支部に累計で20万円以上の活動資金の協力をされた日本赤十字社有功章（金色有功章、銀色有功章）受章者で構成され、財政的な支援者として赤十字の人道的活動を支えている。

現在117名（個人61人、法人56社）の会員で構成されており、令和4年度も当支部の活動資金として多額の寄付をいただいた。

また、令和4年度は、栃木県赤十字有功会設立50周年記念事業として、4月22日（金）に「とちぎ福祉プラザ多目的ホール」で記念コンサートを、6月1日（水）に「ホテル東日本宇都宮」で記念式典を実施した。

(2) 評議員会

評議員会は、日本赤十字社定款第71条により、支部の重要な業務について審議し、又は支部長の諮問に答えるほか、代議員、支部長、副支部長及び監査委員の選出にあたることになっている。

令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底したうえで、令和元年度以来の参集形式により、次のとおり開催した。

第99回日本赤十字社栃木県支部評議員会	
期 日	6月22日（水）
会 場	とちぎ福祉プラザ 福祉研修室
提出議題	第1号議案 令和3年度栃木県支部事業について 第2号議案 令和3年度栃木県支部一般会計歳入歳出決算について 第3号議案 令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算について 第4号議案 令和3年度栃木県赤十字血液センター事業について ※第1号議案から第4号議案まで原案どおり承認された。
その他	なし

第100回日本赤十字社栃木県支部評議員会	
期 日	令和5年2月10日（金）
会 場	とちぎ福祉プラザ 福祉研修室
提出議題	第1号議案 令和5年度栃木県支部事業計画（案）について 第2号議案 令和5年度栃木県支部一般会計歳入歳出予算（案）について 第3号議案 令和5年度医療施設事業運営方針及び特別会計歳入歳出予算（案）について 第4号議案 令和5年度栃木県赤十字血液センター運営方針（案）について 第5号議案 日本赤十字社栃木県支部監査委員の選出について ※第1号議案から第4号議案まで原案どおり承認され、監査委員が選出された。
その他	なし

(3) 監査委員監査

監査委員は、日本赤十字社定款第 62 条第 4 項により、支部及びその下部機関における業務の管理及び執行並びに会計を監査することになっている。令和 4 年度は、監査委員による監査を次のとおり実施した。

期 日	6 月 8 日 (水)
会 場	栃木県支部会議室
監査事項	栃木県支部及び管内赤十字施設の令和 3 年度における業務の管理及び執行並びに会計

10 その他取り組み

(1) 職員研修等

赤十字職員としての知識の習得と意識の高揚を図るため、課題別研修及び階層別研修が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一部の研修については資料配布及びオンライン形式による研修に切り替えて実施し、管内赤十字施設職員が参加した。

ア 支部主催研修（支部職員対象）

研修名	期日・時期	会場・形式	参加者
e ラーニング研修	通年	e ラーニング	14 人
ハラスメント防止研修	通年	e ラーニング	14 人
メンタルヘルス研修	令和 5 年 2 月	支部会議室・参集	14 人

イ 支部及び管内施設共同開催研修（支部及び管内施設職員対象）

研修名	期 日	会場・形式	参加者
課題別研修会 【業務改善（タイム マネジメント）】	9 月 28 日(水)	変更前：とちぎ福祉プラザ・参集 変更後：オンライン	17 人
【以下は階層別研修】			
新規採用職員研修会	4 月 20 日(水)	変更前：とちぎ福祉プラザ・参集 変更後：資料配布	155 人
中堅職員研修会 I	7 月 6 日(水)	とちぎ福祉プラザ・参集	23 人
中堅職員研修会 II	11 月 16 日(水)	とちぎ福祉プラザ・参集	22 人
係長級職員研修会 (隔年開催)	10 月 19 日(水)	変更前：とちぎ福祉プラザ 変更後：オンライン	15 人

ウ 第2ブロック支部共同開催研修

研修名	期 日	会場・形式	参加者
第2ブロック支部 共同開催新任係長級 職員研修会	第1回 7月5日(火)・6日(水) 第2回 7月12日(火)・13日(水) 第3回 7月28日(木)・29日(金)	オンライン	2B管内 182人 (栃木県支部管内 26人)
第2ブロック支部 共同開催新任課長級 職員研修会	第1回 7月21日(木)・22日(金) 第2回 8月2日(火)・3日(水)	オンライン	2B管内 95人 (栃木県支部管内 7人)

エ 日本赤十字社本社主催研修

研修名	期 日	会場・形式	参加者
令和4年度新規採用 職員研修	4月6日(水)～8日(金)	オンライン	全社 47人 (栃木県支部管内 3人)
令和4年度採用職員 1年目フォローアッ プ研修	12月15日(水)・16日(木)	日本赤十字 社本社・参集	全社 50人 (栃木県支部管内 2人)
令和3年度採用職員 2年目フォローアッ プ研修	令和5年 2月7日(火)・8日(水)	日本赤十字 社本社・参集	全社 64人 (栃木県支部管内 1人)
中堅幹部職員養成研修 (課長級職員養成研修) (対象：係長級)	前半部：9月2日(金) 後半部：9月6日(火)～8日(木)、 28日(水)～30日(金) 又は 10月12日(水)～14日(金) 計4日間	オンライン	栃木県支部管内 3人
基幹幹部職員養成研修 (部長級職員等養成研修) (対象：課長級)	前半部：10月18日(火) 後半部：10月25日(火)・26日(水) 又は 10月27日(木)・28日(金) 計3日間	オンライン	栃木県支部管内 2人

資 料

赤十字の基本原則

(1965年にウィーンで開催された第20回赤十字国際会議で議決)

人 道

国際赤十字・赤新月運動（「以下、赤十字・赤新月」）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は、生命と健康を守り、人間の尊厳を確保することにある。赤十字・赤新月は、すべての国民間の相互理解、友情、協力、及び堅固な平和を助長する。

公 平

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中 立

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時にずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも政治的・人種的・宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独 立

赤十字・赤新月は独立である。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

奉 仕

赤十字・赤新月は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単 一

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかありえない。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世 界 性

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

国際赤十字の機構

国際赤十字とは、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社を総称したものです。

赤十字国際会議

この会議は、赤十字の最高議決機関で、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社そしてジュネーブ条約締結国の政府代表の四者が4年に1回集まって開かれます。

赤十字国際委員会

この委員会は、1863年2月17日に創設、スイス人15人以上25人以内で構成され、その仕事は、次のとおりです。

- ①戦争、内戦等の際に、中立機関として、犠牲者の保護と救済にあたること。
- ②赤十字の基本原則が守られるようにすること。
- ③新設された各国赤十字社等の承認を行うこと。
- ④国際人道法の研究と普及を推進し、人道法が守られるようにすること。

ジュネーブ条約締結国

現在のジュネーブ諸条約は、「戦争犠牲者の保護に関する1949年のジュネーブ四条約」、ジュネーブ四条約を補完する条約「1977年の二つの追加議定書」、新たな標章を採用する「2005年の第3追加議定書」があります。

ジュネーブ四条約

- ①戦地にある軍隊の傷者及び病者の状態の改善に関する1949年8月12日の条約…第1条約(陸の条約)
- ②海上にある軍隊の傷者、病者及び難船者の状態の改善に関する1949年8月12日の条約…第2条約(海の条約)
- ③捕虜の待遇に関する1949年8月12日の条約…第3条約(捕虜の条約)
- ④戦時における文民の保護に関する1949年8月12日の条約…第4条約(文民の条約)

ジュネーブ条約追加議定書

- ①第1追加議定書「国際的武力紛争の犠牲者の保護に関し1949年8月12日のジュネーブ諸条約に追加される議定書」
- ②第2追加議定書「非国際的武力紛争の犠牲者の保護に関し1949年8月12日のジュネーブ諸条約に追加される議定書」
- ③第3追加議定書「追加の特殊標章の採用に関し1949年8月12日のジュネーブ諸条約に追加される議定書」(仮称)

国際赤十字・赤新月社連盟 (192の国と地域が加盟)

この連盟は、1919年5月5日各国赤十字社の連合体として設立され、その仕事は、次のとおりです。

- ①各国赤十字社の人道的な活動を支援・推進すること。
- ②各国赤十字社相互の連絡調整・研究を行うこと。
- ③各国赤十字社の設立・発展を促進すること。
- ④災害の被災者に対する救援を行うこと。
- ⑤災害時の国際救援活動の調整をすること。

この連盟の最高議決機関は総会で、2年に1回開かれます。

※近衛 忠輝(日本赤十字社名誉社長)

2009年11月～2017年11月連盟会長(2期8年)

各国赤十字社 (赤新月社を含む)

各国の赤十字社は、1863年以後にあいついで創立され、現在では192の国と地域にありますが、赤十字社の設立条件は、

- ①その国がジュネーブ条約の締結国であること。
 - ②その国から奉仕救護団体として正式に認められていること。
 - ③一つの国に一つの社であり、その社を代表する本社を有していること。
- などの10項目の条件を満たしていなければなりません。

日本赤十字社の誕生

日本赤十字社は、1877年（明治10年）に創立された博愛社を前身とし、1886年（明治19年）に日本政府がジュネーブ条約に加入したことに伴って、翌年1887年（明治20年）に名称を日本赤十字社と改称しました。博愛社は、1877年（明治10年）2月に発生した西南戦争に際し、元老院議員佐野常民〔1822年（文政5年）～1902年（明治35年）〕及び同大給恒〔1839年（天保10年）～1910年（明治43年）〕によって創設された救護団体です。

西南戦争では、官軍と薩摩軍の間で激しい戦闘がくり広げられ、両軍で多数の死傷者を出しました。この時、この悲惨な状況に対して佐野、大給の2人は、救護団体による戦争（武力紛争）時の傷病者救護の必要性を痛感し、ヨーロッパの赤十字と同様の救護団体を創ろうと思い立ちました。

1877年（明治10年）3月、佐野、大給二人の趣旨に賛同した発起人によって博愛社の規則を定め、政府に対し救護団体「博愛社」の設立を願い出しました。

しかし、この願いは認められなかったため、博愛社の設立を急いだ佐野は、征討総督有栖川宮熾仁親王に直接、博愛社設立の趣意書を差し出すことに意を決し、1877年（明治10年）5月1日、熊本の司令部に願い出しました。有栖川宮熾仁親王は英断をもってこの博愛社の活動を許可されました。

救護活動の許可を得た博愛社の救護員は、直ちに長崎の軍病院等に派遣され、官薩両軍の傷病者の救護にあたりました。この博愛社の活動は、当時、敵の負傷者まで助けるという考え方が理解できなかった人々を驚かせ、人道という精神文化の基礎をわが国に植えつけたのです。

日本赤十字社では、佐野常民が願書を提出した5月1日を「創立記念日」と定めています。明治34年（1901年）11月26日、民法に基づく社団法人となり、日清・日露戦争、第一次世界大戦をはじめ、大正12年（1923年）9月1日に発生した関東大震災や第二次世界大戦などに救護班を派遣して傷病者の救護にあたってきました。終戦後は、昭和22年（1947年）1月18日に新定款を制定して再出発し、昭和27年（1952年）8月14日、法律305号により日本赤十字社法が制定公布されましたので、同年10月31日に定款を改正し、昭和28年（1953年）2月13日に特殊法人（現在は認可法人）となりました。

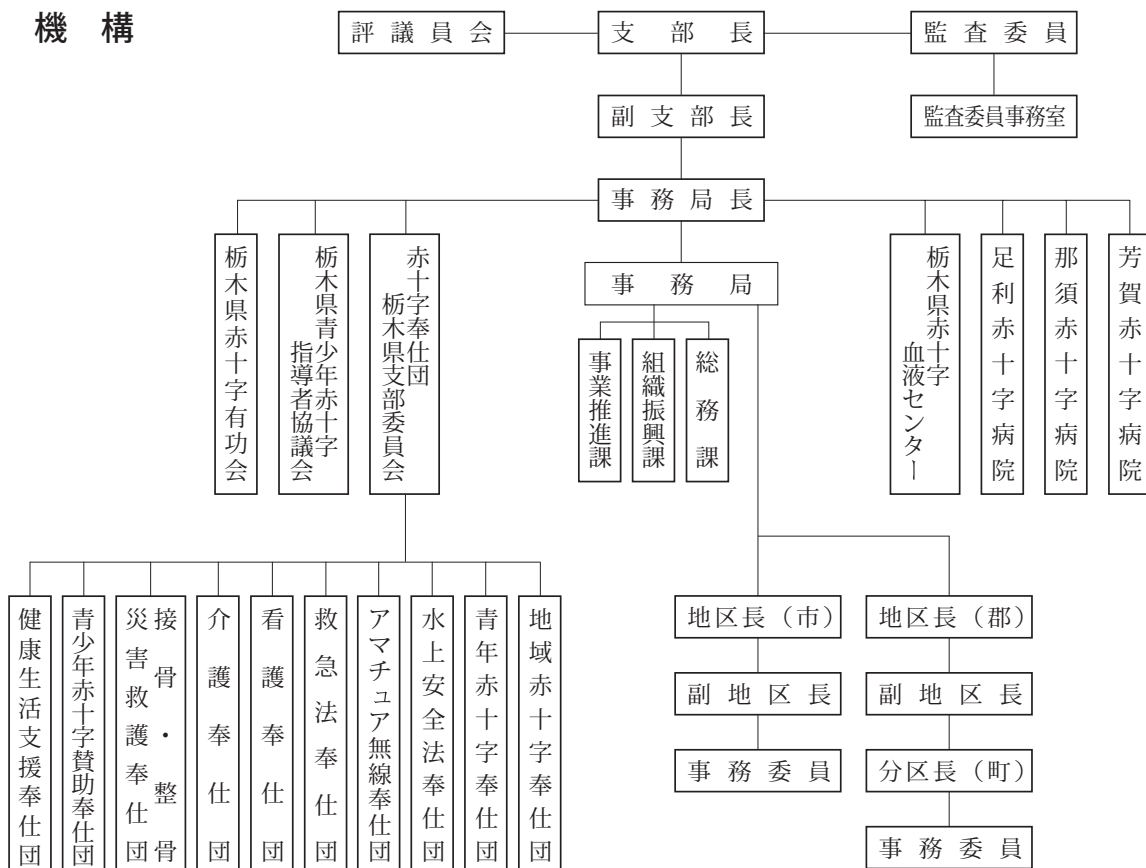
そして平成29年（2017年）には日本赤十字社は創立140周年を迎え、今日に至っています。

栃木県支部の沿革・機構

沿 革

期 日	内 容
明治21年 1月11日	日本赤十字社栃木地方委員会として発足、事務所を県庁内に設置。
明治29年 7月 1日	日本赤十字社栃木支部と改称。
明治45年 3月	県庁構内に社屋を建築。
昭和20年 7月	戦災により社屋が焼失。
昭和21年 2月	社屋が再建。
昭和24年	日本医療団の解散により日赤が医療施設を買収、足利・芳賀・大田原の赤十字三病院を開設。
昭和27年 8月14日	日本赤十字社法が制定、日本赤十字社栃木県支部と改称。
昭和30年 1月	社屋増築。
昭和37年	栃木県赤十字血液センターを支部庁舎内に開設。
昭和44年 5月	県庁構内の整備計画により支部・血液センター合同社屋並びに災害倉庫を宇都宮市昭和1丁目に建築し移転。
昭和58年 5月	薬事法の一部改正（昭和55年10月1日）により業務が拡大し社屋が狭隘となったため、血液センターを市内今宮4丁目に建築移転、支部独立庁舎へ。
昭和63年	支部創立100周年。
平成3年 3月	「赤十字栃木百年のあゆみ」を発刊。
平成12年10月	社屋並びに救護倉庫を宇都宮市若草1目のとちぎ福祉プラザ内に移転。
平成23年 7月	足利赤十字病院が足利市五十部町に新築・移転。
平成24年 7月	大田原赤十字病院が大田原市中田原に新築・移転し、那須赤十字病院と改称。
平成31年 3月	芳賀赤十字病院が真岡市中郷に新築・移転。

機 構



資料 5

日本赤十字社栃木県支部役員・名誉職名簿

(1) 支部長・副支部長・監査委員・本社理事・代議員

(令和 5 年 6 月現在)

役 職 名	氏 名	主 な 公 職	備 考
支 部 長	福 田 富 一	栃木県知事	
副 支 部 長	岩 佐 景 一 郎	栃木県保健福祉部長	
〃	佐 藤 栄 一	栃木県市長会会長	
〃	古 口 達 也	栃木県町村会会長	
監 査 委 員	関 根 房 三		
〃	黒 田 葉 子		
本 社 理 事	五 家 正		
本 社 代 議 員	五 家 正		
〃	稲 寿		
〃	鈴 木 誠 一		
〃	滝 澤 浩 子		
〃	猪 瀬 昌 子		

(2) 評 議 員

(令和5年6月現在)

氏 名	選出区分	氏 名	選出区分
手塚英和	宇都宮市地区	片桐計幸	那須塩原市地区
福田茂夫	〃	鹿野伸二	〃
釵持幸子	〃	花塚隆志	さくら市地区
永井寛	〃	樋山洋平	那須烏山市地区
麦倉仁巳	〃	坂村哲也	下野市地区
桶田正信	〃	角田充仙	〃
早川尚秀	足利市地区	星野光利	河内地区
石原榮	〃	大関一雄	芳賀地区
大川秀子	栃木市地区	広田茂十郎	〃
首長正博	〃	小菅一弥	下都賀地区
金子裕	佐野市地区	真瀬宏子	〃
松本玲子	〃	加藤公博	塩谷地区
宇賀神伴吉	鹿沼市地区	平山幸宏	那須地区
亀山貴則	〃	福島泰夫	南那須地区
岸野稔	日光市地区	谷田部貴	支部長選出
絵面昭	〃	菊池康雄	〃
柿崎全良	小山市地区	寺山厚子	〃
中山信夫	〃	玉木茂	〃
田村武	真岡市地区	早川聡	〃
橋本文雄	〃	横堀幸子	〃
相馬憲一	大田原市地区	鈴木峰雄	〃
益子敦子	〃	朝野春美	〃
齋藤淳一郎	矢板市地区		

※選出区分は、令和4年2月の区分による。

資料 6-1

令和 4 年度 一般会計歳入歳出決算

日本赤十字社栃木県支部

1 歳 入

科目	令和 4 年度決算額 (円)	令和 3 年度決算額 (円)	増減 (円)	対前年比 (%)	概要説明
1 社資収入	316,886,113	269,065,545	47,820,568	117.8%	一般・法人の会費等
2 委託金等収入	0	0	0	—	
3 補助金及び交付金収入	5,321,833	4,933,662	388,171	107.9%	本社からの交付金
4 災害義援金預り金収入		0	0	—	
5 繰入金収入	20,131,108	27,741,377	− 7,610,269	72.6%	積立資金の繰入れ
6 借入金収入	0	0	0	—	
7 貸付金償還金収入	0	0	0	—	
8 出資金償還金収入	0	0	0	—	
9 資産収入	13,500	0	13,500	—	地代収入
10 雑収入	6,319,665	4,310,572	2,009,093	146.6%	講習会等負担金、雑収入
11 前年度繰越金	48,647,900	54,014,137	− 5,366,237	90.1%	前年度繰越金
歳入合計	397,320,119	360,065,293	37,254,826	110.3%	

2 歳 出

科 目	令和 4 年度決算額 (円)	令和 3 年度決算額 (円)	増減 (円)	対前年比 (%)	概要説明
1 災害救護事業費	26,898,169	29,445,454	− 2,547,285	91.3%	救護員の研修・訓練、救護装備・材料の整備、救援物資の備蓄、防災ボランティアの育成、救護看護師の養成
2 社会活動費	23,931,188	23,546,347	384,841	101.6%	救急法等の講習、指導員の養成等、奉仕団・ボランティアの育成・研修等、青少年赤十字の育成・研修等、医療施設の指導、献血事業の普及
3 国際活動費	19,136,748	1,063,000	18,073,748	1800.3%	海外救援金、開発協力事業
4 指定事業地方振興費	25,075,108	7,037,400	18,037,708	356.3%	救護設備の整備等、支部国際活動基金への積立て
5 地区区分交付金支出	36,651,240	36,984,138	− 332,898	99.1%	地区区分に対する事務費・事業費交付金
6 社業振興費	28,682,723	28,783,791	− 101,068	99.6%	社資募集、会員管理、広報活動
7 基盤整備交付金・補助金支出	24,453,966	26,905,000	− 2,451,034	90.9%	医療施設に対する交付金等
8 貸付金支出	0	0	0	—	
9 償還金支出	0	0	0	—	
10 積立金支出	74,519,230	60,919,284	13,599,946	122.3%	災害等資金、施設整備準備資金等への積立て
11 出資金支出	0	0	0	—	
12 総務管理費	59,616,429	57,826,474	1,789,955	103.1%	評議員会等経費、旅費、備品・消耗品費、光熱水費、通信運搬費、印刷費、職員研修費、社会保険料等負担金、監査委員監査等経費、その他支部の運営に要する経費
13 資産取得及び資産管理費	987,730	442,284	545,446	223.3%	自動車任意保険料、共益費等
14 本社送納金支出	42,931,650	38,464,221	4,467,429	111.6%	本社送納金
15 予備費	0	0	0	—	予備費
歳出合計	362,884,181	311,417,393	51,466,788	116.5%	

歳入合計額 397,320,119 円
 歳出合計額 362,884,181 円
 歳入歳出差引額 34,435,938 円 (翌年度繰越額)

資料 6-2

令和 4 年度 医療施設特別会計歳入歳出決算

1. 収益的收入及び支出

(単位：円)

病院名		芳賀赤十字病院	那須赤十字病院	足利赤十字病院
収 入	科 目	決 算 額	決 算 額	決 算 額
	医 業 収 益	9,867,962,577	13,412,754,245	18,128,599,225
	医 業 外 収 益	1,937,682,486	1,184,280,151	745,353,102
	医療社会事業収益	1,330,646	34,195	34,965
	付 帯 事 業 収 益	97,779,150	53,971,680	0
	特 別 利 益	3,795,991	1,059,595	16,910,562
	合計 (病院収益)	11,908,550,850	14,652,099,866	18,890,897,854
支 出	科 目	決 算 額	決 算 額	決 算 額
	医 業 費 用	10,507,065,171	14,415,452,351	18,096,051,135
	医 業 外 費 用	159,402,234	404,209,759	102,893,848
	医療奉仕費用	63,997,482	59,449,667	11,998,101
	付 帯 事 業 費 用	111,129,114	82,699,009	0
	特 別 損 失	239,058,717	3,615,207	7,386,089
	法 人 税 等	0	1,442,812	-158,167
	合計 (病院費用)	11,080,652,718	14,966,868,805	18,218,171,006
収入支出差引額		827,898,132	-314,768,939	672,726,848

2. 資本的收入及び支出

(単位：円)

収 入	科 目	決 算 額	決 算 額	決 算 額
	固 定 負 債	22,152,272	17,471,232	66,214,461
	資 産 売 却 収 入	0	0	0
	その他資本収入	1,684,901,127	746,756,001	2,552,654,330
	合計 (病院収益)	1,707,053,399	764,227,233	2,618,868,791
支 出	科 目	決 算 額	決 算 額	決 算 額
	固 定 資 産	715,919,255	266,613,872	1,385,297,388
	借入金等償還	991,134,144	497,613,361	1,233,571,403
合計 (病院費)		1,707,053,399	764,227,233	2,618,868,791

監査委員監査について

令和 5 年 6 月 6 日（火）に、支部事務局、管内赤十字病院及び赤十字血液センターの令和 4 年度の業務の管理及び執行並びにその会計にかかる監査委員監査が行われました。

その結果、当支部は、支部事務局及び各施設が一体となって事業を実施し、会員、ボランティア、寄付者、利用者、患者、献血者その他一般市民の赤十字への期待に込んでいること、並びに、歳入歳出決算報告書は、支部事務局及び各施設（歳入歳出決算報告書を作成しない栃木県赤十字血液センターを除く。）の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示していることが認められました。

※注 赤十字血液センターの会計は、平成 24 年度分から関東甲信越ブロック血液センターが執行しており、収支決算にかかる監査は、同ブロック血液センターにおいて実施されている。

資料 7

令和 4 年度 地区区分別社資募集状況一覧表

令和 5 年 3 月 31 日現在

地区区分名	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
宇 都 宮 市	61,007,000	42,804,251	70.2%
足 利 市	18,561,000	13,728,899	74.0%
栃 木 市	17,458,000	14,930,944	85.5%
佐 野 市	13,760,000	10,432,604	75.8%
鹿 沼 市	10,781,000	9,825,319	91.1%
日 光 市	10,300,000	9,098,568	88.3%
小 山 市	17,977,000	13,716,440	76.3%
真 岡 市	8,262,000	8,215,310	99.4%
大 田 原 市	7,861,000	7,640,340	97.2%
矢 板 市	3,750,000	3,684,264	98.2%
那 須 塩 原 市	12,836,000	10,832,450	84.4%
さ く ら 市	4,186,000	3,478,060	83.1%
那 須 烏 山 市	2,973,000	2,444,350	82.2%
下 野 市	6,097,000	6,543,830	107.3%
上 三 川 町	3,011,000	3,497,424	116.2%
益 子 町	2,383,000	2,768,321	116.2%
茂 木 町	1,546,000	1,519,200	98.3%
市 貝 町	1,197,000	1,194,900	99.8%
芳 賀 町	1,509,000	1,774,000	117.6%
壬 生 町	4,245,000	4,004,816	94.3%
野 木 町	2,906,000	3,174,618	109.2%
塩 谷 町	1,227,000	1,461,500	119.1%
高 根 沢 町	3,281,000	1,912,905	58.3%
那 珂 川 町	1,806,000	2,133,960	118.2%
那 須 町	2,486,000	2,439,000	98.1%
地区区分合計	221,406,000	183,256,273	82.8%
栃木県支部直	33,495,000	115,498,732	344.8%
総 合 計	254,901,000	298,755,005	117.2%

資料 8

令和 4 年度 地区分区別救援物資等配布状況

	全焼		全壊		流失		半焼		半壊		床上浸水		避難		毛布	布団	緊急 セット	安眠 セット	弔慰金 (円)
	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員	避難所数	人員					
宇都宮市	11	20	0	0	0	0	5	9	0	0	0	0	0	0	26	26	16	0	20,000
足利市	4	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	40,000
栃木市	3	7	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	30,000
佐野市	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	1	0	10,000
鹿沼市	4	8	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	9	10	4	0	30,000
日光市	8	17	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	15	15	8	0	20,000
小山市	5	11	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	16	16	7	0	0
真岡市	2	7	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	12	12	5	0	0
大田原市	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	2	0	10,000
矢板市	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	2	0	0
那須塩原市	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0
さくら市	5	10	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	14	14	8	0	0
那須烏山市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,000
下野市	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	4	0	0
上三川町	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0
益子町	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	3	0	0
茂木町	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
市貝町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芳賀町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壬生町	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	1	0	10,000
野木町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
塩谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高根沢町	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0
那珂川町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
那須町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区分区合計	61	143	0	0	0	0	17	35	0	0	0	0	0	0	140	146	69	0	180,000

資料 9

令和 4 年度 月別救援物資等配布状況

月	品名	毛 布	布 団	緊 急 セ ッ ト	安 眠 セ ッ ト	弔 慰 金
						金 額(円)
4 月		6	6	2	0	10,000
5 月		3	3	2	0	10,000
6 月		5	5	2	0	20,000
7 月		10	10	4	0	0
8 月		4	5	4	0	0
9 月		13	13	7	0	0
10月		4	4	3	0	10,000
11月		0	0	0	0	0
12月		11	11	5	0	0
1 月		14	14	6	0	50,000
2 月		21	21	7	0	10,000
3 月		49	54	27	0	70,000
計		140	146	69	0	180,000

資料 10

令和 4 年度 市町別青少年赤十字メンバー数

令和 5 年 3 月 31 日現在

地区区分名	加盟校数	メンバー数	幼稚園・保育所数	幼稚園・保育所メンバー数	小学校数	小学校メンバー数	中学校数	中学校メンバー数	高等学校数	高校メンバー数	特別支援学校数	特別支援学校メンバー数
宇都宮市	28	4,896	1	109	7	2,771	4	1,025	10	287	6	704
足利市	7	765	2	226			2	213	2	59	1	267
栃木市	7	1,039	2	277	1	73	1	386	2	50	1	253
佐野市	7	1,497			1	150	4	1,144	2	203		
鹿沼市	5	152			3	73	1	52	1	27		
日光市	7	484	2	309	3	83	1	7			1	85
小山市	15	4,543					11	4,421	4	122		
真岡市	2	157			1	77			1	80		
大田原市	3	64			1	34			2	30		
矢板市	1	23							1	23		
那須塩原市	1	296									1	296
さくら市	1	1,009					1	1,009				
那須烏山市	7	1,384			5	987	1	247			1	150
下野市												
市地区計	91	16,309	7	921	22	4,248	26	8,504	25	881	11	1,755
上三川町	1	304					1	304				
河内地区計	1	304					1	304				
益子町	1	15							1	15		
茂木町												
市貝町	4	814			3	532	1	282				
芳賀町												
芳賀地区計	5	829			3	532	1	282	1	15		
壬生町	3	1,052					2	1,029	1	23		
野木町	1	278					1	278				
下都賀地区計	4	1,330					3	1,307	1	23		
塩谷町												
高根沢町	2	560					1	543	1	17		
塩谷地区計	2	560					1	543	1	17		
那珂川町	3	235			1	212	1	16	1	7		
南那須地区計	3	235			1	212	1	16	1	7		
那須町	1	8							1	8		
那須地区計	1	8							1	8		
郡地区合計	16	3,266			4	744	7	2,452	5	70		
地区合計	107	19,575	7	921	26	4,992	33	10,956	30	951	11	1,755

令和 4 年度 栃木県青少年赤十字加盟校一覽

令和 5 年 3 月 31 日現在

学 校 名	郵便番号	住 所	学校代表 TEL
宇都宮市立西原小学校	320-0862	宇都宮市西原 2-5-42	028-634-4401
宇都宮市立錦小学校	321-0967	宇都宮市錦 2-7-15	028-621-0444
宇都宮市立峰小学校	321-0942	宇都宮市峰 3-20-17	028-633-3973
宇都宮市立富士見小学校	320-0851	宇都宮市鶴田町 2708-3	028-633-4549
宇都宮市立泉が丘小学校	321-0952	宇都宮市泉が丘 7-12-14	028-661-2255
宇都宮市立宝木小学校	320-0065	宇都宮市駒生町 3364-29	028-624-0317
宇都宮市立平石北小学校	321-0901	宇都宮市平出町 1804	028-661-0647
鹿沼市立上南摩小学校	322-0346	鹿沼市上南摩町 732	0289-77-3073
鹿沼市立南押原小学校	322-0536	鹿沼市磯町 117	0289-75-2290
鹿沼市立永野小学校	328-0211	鹿沼市上永野 310	0289-84-0023
日光市立今市第二小学校	321-1263	日光市瀬川 227	0288-21-0866
日光市立轟小学校	321-2404	日光市轟 53	0288-21-8247
日光市立湯西川小中学校	321-2601	日光市湯西川 643	0288-98-0009
真岡市立西田井小学校	321-4301	真岡市西田井 1505-2	0285-82-2528
市貝町立市貝小学校	321-3423	市貝町市塙 2184	0285-68-0013
市貝町立赤羽小学校	321-3426	市貝町赤羽 2711	0285-68-0265
市貝町立小貝小学校	321-3413	市貝町文谷 1188	0285-68-0109
栃木市立大宮南小学校	328-0026	栃木市藤田町 135-2	0282-22-1483
那須烏山市立江川小学校	321-0504	那須烏山市下川井 1001	0287-88-7817
那須烏山市荒川小学校	321-0522	那須烏山市大金 135-1	0287-88-2017
那須烏山市立境小学校	321-0617	那須烏山市上境 1404	0287-82-2442
那須烏山市立烏山小学校	321-0629	那須烏山市愛宕台 2800	0287-82-2049
那須烏山市立七合小学校	321-0603	那須烏山市谷浅見 910	0287-82-2707
那珂川町立小川小学校	324-0501	那珂川町小川 2846	0287-96-2049
大田原市立羽田小学校	324-0002	大田原市羽田 644	0287-22-2683
佐野市立赤見小学校	327-0104	佐野市赤見 3229	0283-25-0704
宇都宮市立一条中学校	320-0842	宇都宮市京町 9-25	028-633-0401
宇都宮市立城山中学校	321-0345	宇都宮市大谷町 1423	028-652-0108
宇都宮市立上河内中学校	321-0414	宇都宮市中里町 162	028-674-2108
宇都宮市立古里中学校	329-1105	宇都宮市中岡本町 3130	028-673-1815
上三川町立明治中学校	329-0525	上三川町大山 25	0285-53-3346
鹿沼市立南摩中学校	322-0344	鹿沼市西沢町 1414	0289-77-2009
日光市立湯西川小中学校	321-2601	日光市湯西川 643	0288-98-0009
市貝町立市貝中学校	321-3423	市貝町市塙 4072	0285-68-0104
壬生町立壬生中学校	321-0214	壬生町壬生甲 2770	0282-82-6990
壬生町立南犬飼中学校	321-0207	壬生町北小林 743	0282-86-0134
野木町立野木第二中学校	329-0114	野木町野木 4048	0280-55-2701
小山市立小山中学校	323-0005	小山市渋井 779-1	0285-22-0168
小山市立小山第二中学校	323-0032	小山市天神町 1-6-36	0285-22-0089
小山市立小山第三中学校	323-0811	小山市犬塚 3-29-1	0285-25-5745
小山市立小山城南中学校	323-0829	小山市東城南 1-22-9	0285-27-5800
小山市立大谷中学校	323-0819	小山市横倉新田 97	0285-27-0252
小山市立間々田中学校	329-0205	小山市間々田 2364	0285-45-0062
小山市立乙女中学校	329-0214	小山市乙女 1731	0285-45-3600
小山市立豊田中学校	323-0007	小山市松沼 397	0285-37-0004
小山市立美田中学校	323-0065	小山市下国府塚 287	0285-38-2006
小山市立桑中学校	323-0808	小山市出井 1859	0285-22-0187
小山市立絹義務教育学校	323-0155	小山市福良 2240-1	0285-49-0141
栃木市立岩舟中学校	329-4307	栃木市岩舟町静 389-1	0282-55-2129
さくら市立氏家中学校	329-1311	さくら市氏家 3243	028-682-2204
那須烏山市立南那須中学校	321-0522	那須烏山市大金 285	0287-88-2021
高根沢町立阿久津中学校	329-1234	高根沢町中阿久津 1470	028-675-0014
那珂川町立馬頭中学校	324-0613	那珂川町馬頭 2558-10	0287-92-2399

学 校 名	郵便番号	住 所	学校代表 TEL		
佐野市立北中学校	327-0844	佐野市富岡町 93	0283-23-0961		
佐野市立常盤中学校	327-0512	佐野市豊代町 2167	0283-85-3020		
県立佐野高等学校附属中学校	327-0847	佐野市天神町 761-1	0283-23-0161		
佐野日本大学中等教育学校	327-0192	佐野市石塚町 2555	0283-25-3987		
足利市立第一中学校	326-0817	足利市西宮町 3045	0284-21-3915		
足利市立第二中学校	326-0808	足利市本城 1-1472	0284-41-2158		
県立宇都宮高等学校	320-0846	宇都宮市滝の原 3-5-70	028-633-1426		
県立宇都宮東高等学校	321-0912	宇都宮市石井町 3360-1	028-656-1311		
県立宇都宮北高等学校	321-0973	宇都宮市岩曾町 606	028-663-1311		
県立宇都宮清陵高等学校	321-3236	宇都宮市竹下町 908-3	028-667-6251		
県立宇都宮女子高等学校	320-0863	宇都宮市操町 5-19	028-633-2315		
県立宇都宮中央高等学校	320-0072	宇都宮市若草 2-2-46	028-622-1766		
県立宇都宮白楊高等学校	321-0954	宇都宮市元今泉 8-2-1	028-661-1525		
県立宇都宮工業高等学校	321-0198	宇都宮市雀宮町 52	028-678-6500		
作新学院高等学校	320-8525	宇都宮市一の沢 1-1-41	028-648-1811		
宇都宮海星女子学院高等学校	321-3233	宇都宮市上籠谷 3776	028-667-0700		
県立鹿沼東高等学校	322-0002	鹿沼市千漕 2050	0289-62-7051		
県立小山南高等学校	329-0205	小山市間々田 23-1	0285-45-2424		
県立小山西高等学校	323-0007	小山市松沼 741	0285-37-1188		
県立小山北桜高等学校	323-0802	小山市東山田 448-29	0285-49-2932		
県立小山城南高等学校	323-0820	小山市西城南 4-26-1	0285-27-1245		
県立栃木女子高等学校	328-0074	栃木市菌部町 1-2-5	0282-23-0220		
県立学悠館高等学校	328-8558	栃木市沼和田町 2-2	0282-20-7073		
県立壬生高等学校	321-0221	壬生町藤井 1194	0282-82-0411		
佐野日本大学高等学校	327-0192	佐野市石塚町 2555	0283-25-0111		
佐野日本大学中等教育学校	327-0192	佐野市石塚町 2555	0283-25-3987		
県立足利清風高等学校	326-0846	足利市山下町 2110	0284-62-2011		
足利大学附属高等学校	326-0397	足利市福富町 2142	0284-71-1285		
県立真岡女子高等学校	321-4306	真岡市台町 2815	0285-82-2525		
県立益子芳星高等学校	321-4216	益子町塙 2382-1	0285-72-5525		
県立馬頭高等学校	324-0613	那珂川町馬頭 1299-2	0287-92-2009		
県立大田原高等学校	324-0058	大田原市紫塚 3-2651	0287-22-2042		
県立大田原女子高等学校	324-0053	大田原市元町 1-5-43	0287-22-2073		
県立那須高等学校	329-3215	那須町寺子乙 3932-48	0287-72-0075		
県立矢板高等学校	329-2155	矢板市片俣 618-2	0287-43-1231		
県立高根沢高等学校	329-1204	高根沢町文挾 32-2	028-676-0531		
県立盲学校	321-0342	宇都宮市福岡町 1297	028-652-2331		
県立聾学校	320-0072	宇都宮市若草 2-3-48	028-622-3910		
県立わかかさ特別支援学校	320-8503	宇都宮市駒生町 3337-1	028-622-3650		
県立富屋特別支援学校	321-2116	宇都宮市徳次郎町 39-1	028-665-2281		
県立岡本特別支援学校	329-1104	宇都宮市下岡本町 2160	028-673-3456		
県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園	320-8506	宇都宮市京町 9-32	028-639-2080		
県立今市特別支援学校	321-1264	日光市瀬尾 1640-22	0288-22-6417		
県立栃木特別支援学校	328-0067	栃木市皆川城内町 1053	0282-24-7575		
県立足利中央特別支援学校	326-0005	足利市大月町 871-3	0284-41-1185		
県立那須特別支援学校	329-2712	那須塩原市下永田 8-7	0287-36-4570		
県立南那須特別支援学校	321-0532	那須烏山市藤田 1181-152	0287-88-7571		
認定こども園まこと幼稚園	320-0856	宇都宮市砥上町 330-71	028-648-2757		
認定こども園ふじおか幼稚園	323-1104	栃木市藤岡町藤岡 342	0282-61-1152		
認定こども園しずわでら幼稚園	329-4304	栃木市岩舟町静和 1151-4	0282-54-1152		
認定こども園東光寺幼稚園	326-0143	足利市葉鹿町 224	0284-62-0473		
認定こども園両野こども園	326-0142	足利市小俣南町 4-2	0284-62-4808		
杉の子保育園	321-1107	日光市今市 72-1	0288-21-2826		
芹沼保育園	321-2405	日光市芹沼 892	0288-22-7171		
小学校 26	中学校 33	高等学校 30	特別支援学校 11	幼・保 7	計 107

資料 12

令和 4 年度 災害義援金・救援金の受付金額

(令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

義援金・救援金の名称	県支部の受付金額(円)	備 考 (円)
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	14,470	115,148,541
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	372,128	5,915,478
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	174,900	174,900
令和 4 年 7 月大雨災害義援金	70,382	70,382
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金	284,190	284,190
令和 4 年台風第 15 号災害義援金	66,954	66,954
中東人道危機救援金	60,000	61,008
バングラデシュ南部避難民救援金	22,315	22,565
アフガニスタン人道危機救援金	5,500	30,500
ウクライナ人道危機救援金	26,205,438	44,064,063
2022 年アフガニスタン地震救援金	17,031	17,031
2022 年パキスタン洪水救援金	334,071	334,071
2023 年トルコ・シリア地震救援金	10,735,417	10,735,417
地域を指定しない海外救援金	18,371	914,785
青少年赤十字活動資金	13,000	238,826
第 40 回 NHK 海外たすけあい	995,370	—

※ 複数年度にわたる義援金等については、備考欄に当支部の受付金額の累計を記載

資料 13

令和 4 年度 年間行事等の実施及び参加状況

年	月	日	行 事 名	場所・形式
4	4	4	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		11	新任支部事務局長研修	本社
		12	全国支部事務局長会総会	本社
		12	全国支部事務局長会議	本社
		12	赤十字奉仕団栃木県支部委員会	福祉プラザ
		15	日赤地区分区事務担当者研修会	福祉プラザ
		22	常任理事会	本社
		22	栃木県赤十字有功会設立 50 周年記念コンサート	福祉プラザ
		24	救急法奉仕団総会	オンライン
		24	アマチュア無線奉仕団総会	支部
		26	栃木県赤十字有功会会計監査	宇都宮市
		26	栃木県赤十字有功会役員会	宇都宮市
		27	第 1 回救急法等講習普及事業連絡会	オンライン
	5	1	赤十字運動月間 (31 日まで)	全国
		9	赤十字活動資金募集説明会	真岡市
		10	防災教育指導者主任指導者研修	支部
		11	永年勤続職員功労表彰式	宇都宮市
		11	日本赤十字社有功章等伝達式	宇都宮市
		12	青少年赤十字指導者協議会役員会	支部
		12	第 1 回救護計画連絡協議会	支部
		16	第 2 ブロック支部事業推進担当課長会議	オンライン
		18	看護奉仕団総会	支部
		19	全国赤十字大会	東京都
		20	職員採用試験説明会	福祉プラザ
		20	第 1 回北関東四県支部事務局長会議	茨城県
		20	常任理事会	本社
		25	監査委員への監査実施状況報告書の説明	支部
25	地域包括ケア事業担当者会議 (第 1 回)	オンライン		
27	青少年赤十字賛助奉仕団総会	書面開催		
30	赤十字奉仕団中央委員会 (31 日まで)	本社		
6	1	栃木県赤十字有功会設立 50 周年記念式典兼令和 4 年度総会	宇都宮市	
	2	青少年赤十字指導者協議会総会	とちぎ福祉プラザ	
	8	監査委員監査	支部	
	15	日本赤十字社栃木県支部救護班主事研修	オンライン	
	15	赤十字活動資金募集説明会	宇都宮市	
	17	救急法指導員フォローアップ研修	足利市	
	20	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部	
	22	第 99 回評議員会	福祉プラザ	
	23	常任理事会	本社	
	23	日本赤十字社栃木県支部常備救護班訓練・学科	オンライン	

年	月	日	行 事 名	場所・形式
		24	本社理事会・代議員会	本社
		24	日本赤十字社栃木県支部常備救護班訓練・実技	塩谷町
		25	防災ボランティア・リーダー養成研修	オンライン
		26	日本赤十字社第2ブロック支部青年赤十字奉仕団連絡協議会(第1回)	オンライン
		29	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	オンライン
7		4	令和4年度第2ブロック支部事務局長会議	東京都
		5	令和4年度第2ブロック支部共同開催「新任係長級」職員研修会第1回目(6日まで)	オンライン
		6	支部管内中堅職員研修会 I	福祉プラザ
		11	北関東4県支部総務課長会議	オンライン
		11	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		12	令和4年度第2ブロック支部共同開催「新任係長級」職員研修会第2回目(13日まで)	オンライン
		14	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会(15日まで)	本社
		15	日本赤十字社栃木県支部赤十字救護員養成研修<基礎研修 I >	支部
		20	第2ブロック支部振興業務担当者研究会	オンライン
		21	令和4年度第2ブロック支部共同開催「新任課長級」職員研修会第1回目(22日まで)	オンライン
		21	那須岳火山防災協議会	書面開催
		22	常任理事会	本社
		23	職員採用試験(一次試験)	宇都宮市
		28	令和4年度第2ブロック支部共同開催「新任係長級」職員研修会第3回目(29日まで)	オンライン
		31	青少年赤十字創設100周年記念県内統一活動(街頭募金)	宇都宮市、矢板市、小山市
8		2	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		2	令和4年度第2ブロック支部共同開催「新任課長級」職員研修会第2回目(3日まで)	オンライン
		8	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(中学部)第1日目	オンライン
		9	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(高等部)(10日まで)	とちぎ福祉プラザ
		12	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(中学部)第2日目	オンライン
		19	第2ブロック支部青少年赤十字指導者協議会総会・研究集会	書面開催、オンライン
		3	栃木県・那須町防災図上総合訓練	支部
9		2	中堅幹部職員養成研修会(前半部)(本社主催)	オンライン
		3	登録防災ボランティア・スキルアップ研修	支部
		5	職員採用試験(二次試験 第1日目)	支部
		7	職員採用試験(二次試験 第2日目)	支部
		7	第2回業務連絡会議	支部
		7	全国支部振興担当課長会議	オンライン
		12	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		15	令和4年度日本赤十字社全国支部事務局長会社業振興特別委員会	オンライン
		17	栃木・群馬県合同青少年赤十字国際交流事業	群馬県支部
		20	赤十字ボランティア基礎研修会	支部
		26	ファンレイジングセミナー	オンライン
		28	支部管内課題別研修会	オンライン
		29	第2ブロック支部振興業務担当課長会議	オンライン
10		2	青少年赤十字国際交流事業(第1部)	オンライン
		6	防災教育指導者養成研修(7日まで)	支部
		6	全国日赤紺綬・有功会会長協議会総会	大阪府

年	月	日	行 事 名	場所・形式
		7	水上安全法講師研修会	オンライン
		12	中堅幹部職員養成研修（後半部）（本社主催）14日まで	オンライン
		12	緊急自動車安全運転技能合同研修	茨城県
		15	青少年赤十字大会	宇都宮市
		17	北関東四県総務・会計担当者研究会	埼玉県
		17	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		18	防災ボランティア養成研修	支部
		19	支部管内係長職員研修会	オンライン
		20	令和5年度職員採用試験内定者説明会	支部
		21	第2回救護計画連絡協議会	支部
		22	全国赤十字救護班研修会（指導スタッフ研修）（22日まで）	東京都
		26	地域包括ケア事業担当者会議（第2回）	オンライン
		27	第2回北関東四県支部総務課長会議	オンライン
		29	栃木・群馬県合同青少年赤十字国際交流事業	オンライン
11		5	青少年赤十字国際交流事業（第2部）（6日まで）	オンライン
		10	第2回救急法等講習普及事業連絡会	オンライン
		11	第2ブロック支部新任課長級・係長級職員研修会検証会	オンライン
		11	第2ブロック支部総務・会計担当課長会議	オンライン
		14	赤十字ボランティア基礎研修会	野木町
		15	幼児安全法講師養成講習（17日まで）	東京都
		19	日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練	神奈川県
		19	日本赤十字看護大学赤十字特別推薦選抜第1次試験	東京都
		21	第2ブロック支部赤十字奉仕団委員長、担当課長会議	オンライン
		21	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		24	日本赤十字社栃木県支部救護員養成研修<3.集合研修>・学科	オンライン
		25	日本赤十字社栃木県支部救護員養成研修<3.集合研修>・実技	足利市
		26	日本赤十字社第2ブロック支部青年赤十字奉仕団連絡協議会（第2回）	オンライン
		27	日本赤十字看護大学赤十字特別推薦選抜第2次試験	東京都
		29	日本赤十字社有功章等表彰伝達式	宇都宮市
		29	救急法講師養成講習（12月1日まで）	東京都
		30	日本赤十字社栃木県支部救護員養成研修<3.集合研修>・実技	真岡市
12		1	海外たすけあいキャンペーン（25日まで）	全国
		10	青少年赤十字メンバーによる海外たすけあい街頭募金	宇都宮市
		11	栃木県・栃木市総合防災訓練	栃木市
		11	アマチュア無線奉仕団非常通信訓練	栃木市
		12	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		16	第2ブロック・長野県支部事務局長・関東甲信越BBC所長合同会議	オンライン
		16	臨時 第2ブロック支部事務局長会議	オンライン
		17	久光製薬社員による海外たすけあい街頭募金	宇都宮市
		21	臨時 本社事務局長会議	オンライン
		25	青少年赤十字高等部リーダー研修会	とちぎ福祉プラザ
5	1	10	健康生活支援講習講師研修会（11日まで）	東京都
		11	幼児安全法講師研修会（12日まで）	東京都

年	月	日	行 事 名	場所・形式
		16	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		16	日本赤十字社第2ブロック支部先遣要員訓練・学科	オンライン
		19	日本赤十字社第2ブロック支部先遣要員訓練・実技	茨城県
		22	赤十字防災ボランティア養成研修	支部
		25	救急法講師研修会	東京都、オンライン
		27	第2回北関東四県支部事務局長会議	オンライン
		28	赤十字ボランティアリーダー研修会（30日まで）	本社
		28	赤十字奉仕団支部指導講師研修会（30日まで）	本社
		29	茨城・栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会交流会	茨城県支部
		29	北関東四県支部海外赤十字・赤新月社オンライン研修	オンライン
		31	日赤副地区長・事務担当課長会議	福祉プラザ
	2	3	第2回業務連絡会議	支部
		7	幼児安全法指導員研修	支部
		7	救急法指導員研修	支部
		9	救急法指導員研修	支部
		10	第100回評議員会	福祉プラザ
		12	登録赤十字防災ボランティア・フォローアップ研修	支部
		12	登録赤十字防災ボランティア新規登録者研修	支部
		13	地域包括ケア事業担当者会議（第3回）（14日まで）	東京都
		16	青少年赤十字指導者研究会	支部、オンライン
		17	災害ボランティア活動連絡会議	宇都宮市
		18	救急法指導員研修	支部
		19	救急法指導員研修	支部
		19	幼児安全法指導員研修	支部
		24	赤十字ボランティア基礎研修会	真岡市
		24	第3回救護計画連絡協議会	支部
		25	福島・栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会交流会	オンライン
	3	1	赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会	支部
		3	日本赤十字社栃木県支部救護員養成研修<3.集合研修>・実技	大田原市
		6	青少年赤十字賛助奉仕団役員会	支部
		6	日本赤十字社栃木県支部災害対策本部運営訓練兼マニュアルOJT研修	支部
		11	水上安全法指導員研修	大田原市
		15	臨時救護計画連絡協議会	支部
		17	本社理事会・代議員会	東京都
		21	青少年赤十字スタディー・プログラム（第1部）	オンライン
		25	青少年赤十字スタディー・プログラム（第2部）	本社



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

栃木県支部

〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6

TEL 028-622-4326 FAX 028-624-4940

ホームページ：

<https://www.jrc.or.jp/chapter/tochigi/>

日本赤十字社栃木県支部の施設

芳賀赤十字病院

〒321-4308 真岡市中郷271

☎0285(82)2195

那須赤十字病院

〒324-8686 大田原市中田原1081-4

☎0287(23)1122

足利赤十字病院

〒326-0843 足利市五十部町284番地1

☎0284(21)0121

栃木県赤十字血液センター

〒321-0192 宇都宮市今宮4-6-33

☎028(659)0111

栃木県赤十字血液センター宇都宮大通り出張所

〒320-0811 宇都宮市大通り2-1-5

☎028(632)1131